# アタゴオルは猫の森 14

ATAGOAL is Cat's Forest

ますむら・ひろし



MFコミックス

MFコミックス フラッパーシリーズ

アタゴオルは猫の森 14 ますむら・ひろし

MEDIA FACTORY


ISBN978-4-8401-2578-9
C9979 ¥514E

定価：本体514円（税別）
雑誌52647-78
メディアファクトリー




絵の具を買いに行くテンプラ、そこは魚人が跋扈し、潜水服の男と出会うが…『絵の具を買いに』
読書家で知られるパンツが目指す山とは、そしてその頂にあるのは？・『痛読街道』など、
夢か現か摩訶不思議な世界を描いた話題作2篇をはじめとする
8つのお話をお届けします。



ますむら・ひろし

昭和27年生まれ
昭和48年、第5回手塚賞
準入選作『霧にむせぶ夜』で
『週刊少年ジャンプ』にてデビュー。
青林堂に入り『ガロ』で活躍し、
その後も『アタゴオル』をはじめ
次々と作品を各誌で発表する。
平成9年には『アタゴオル玉手箱』で
日本漫画家協会賞大賞受賞。
宮沢賢治作品の漫画化にも取り組み、
『銀河鉄道の夜』が劇場アニメとして
昭和60年に公開され話題を呼んだ。
現在『月刊コミックフラッパー』にて
『アタゴオルは猫の森』を連載中。
平成18年10月『アタゴオルは猫の森』が
劇場アニメとして公開された。


装画・ますむら・ひろし
装幀・多田和博＋岡田ひとみ
フォーマットデザイン・フィールドワーク

ATAGOAL is Cat's Forest

# アタゴオルは猫の森 14

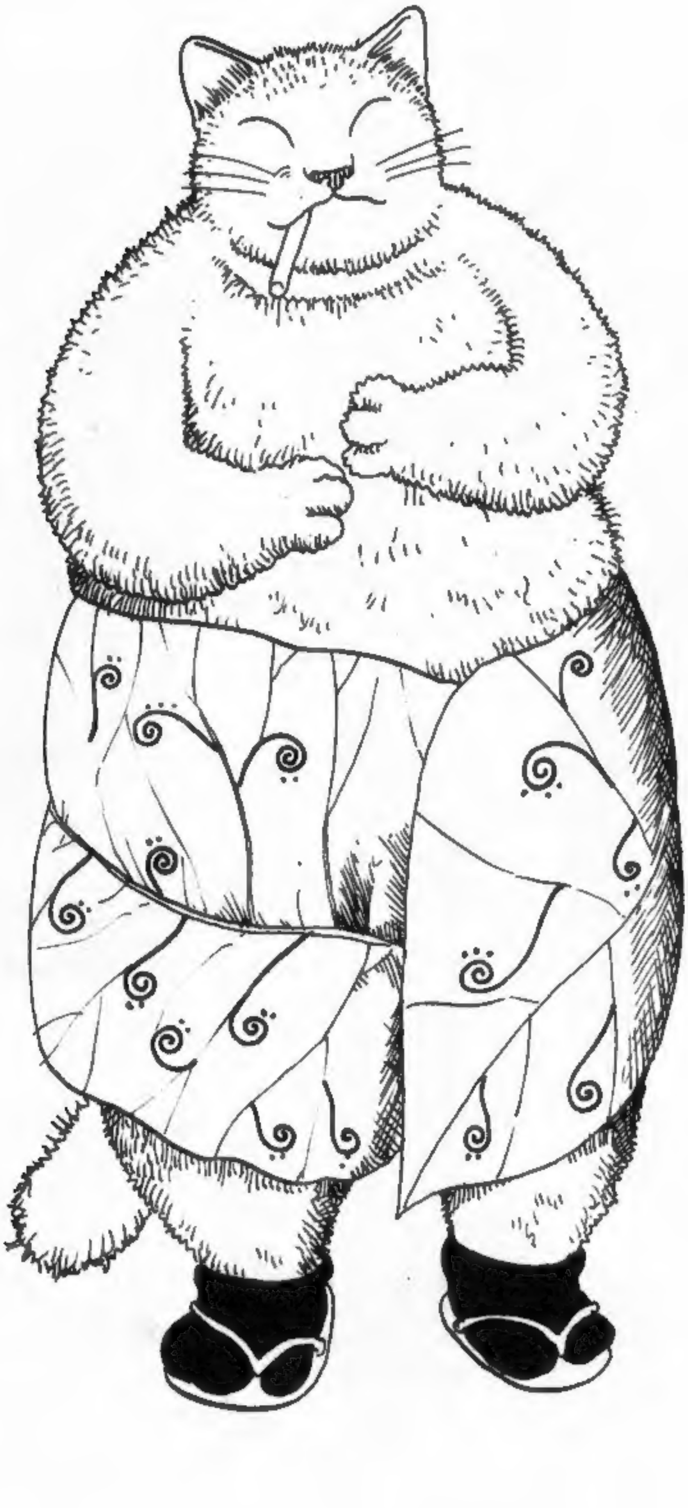
ますむら・ひろし



# アタゴオルは猫の森 ⑭

ATAGOAL is Cat's Forest

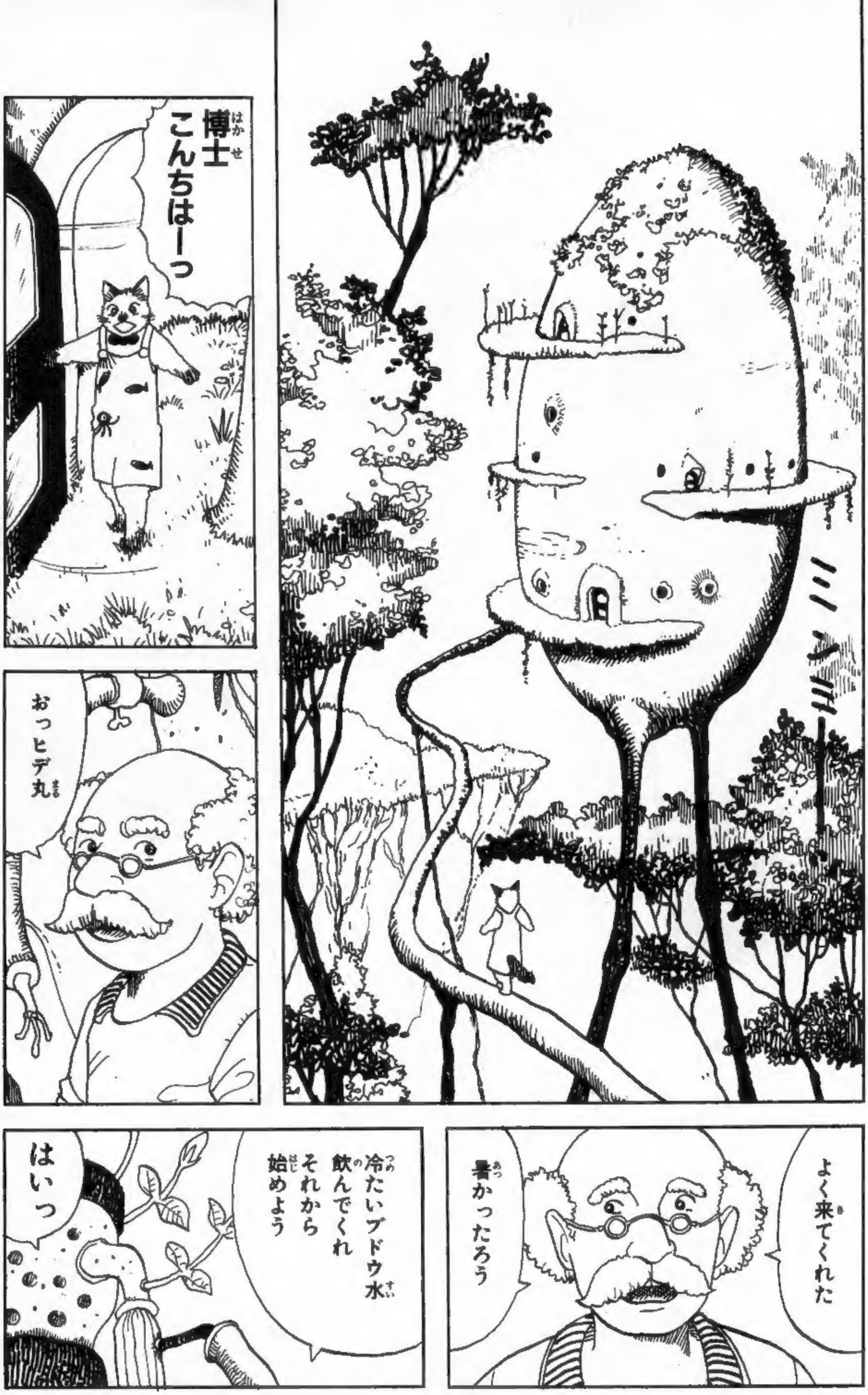
# 第一話　木意慕①



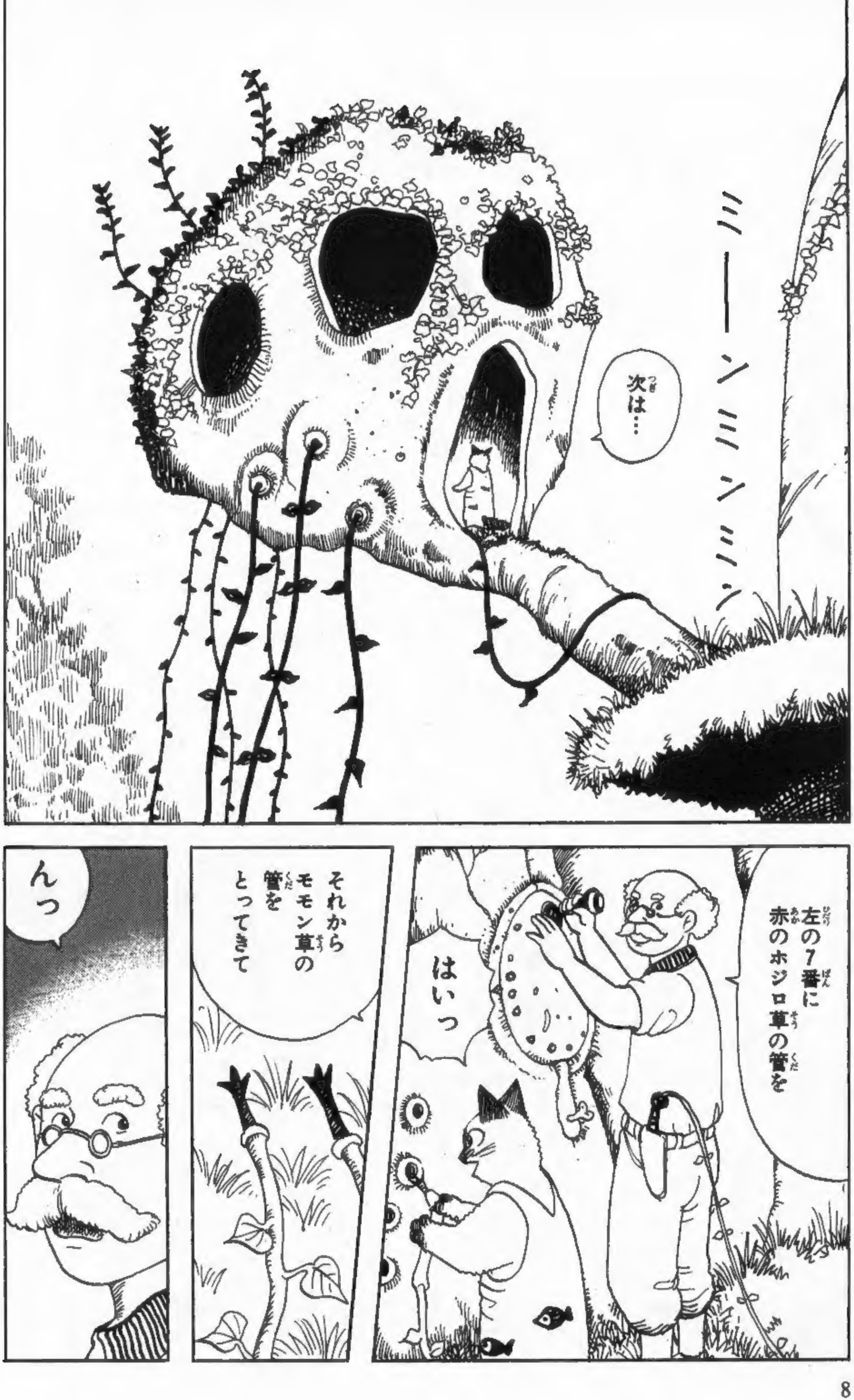

ミーーン
ねーーっ 糖ノ目博士って どこにいるのさ？
えっ 誰だい 糖ノ目博士って？
ホラ いたじゃない オレにいつも ネズミ札で負けて
どっかに逃げた奴
知らないよ
おまえ 夢でも見てん じゃないの
んっ
夢？


そーか
夢だったのかあ
寝てばかりいるから夢見るんだよ
ふ〜〜っ
じゃあねーっ
しーーん
行ってしまいましたね…
博士に居所は言うなって言われてるからな
ヒデヨシ君が博士の家に入りびたって研究のジャマばかりしているので
森の奥にそーっと隠れ住んでいるんですよね


博士は人がイイから
オレみたいに「帰れっ」って言わないからなあ
そういえばオイラ明日博士の所へ手伝いに行くんです
ヒデ丸はよく働くから博士も助かるだろう
ヒデ丸とヒデヨシじゃ天と地の開きだな
くっそお。。
みーんなグルかよォ
翌日
ミーン
暑いなあ



ミンミー
博士こんちはーっ
おっヒデ丸
よく来てくれた
暑かったろう
冷たいブドウ水飲んでくれ それから始めよう
はいっ


ミーンミンミン
次は…
左の7番に赤のホジロ草の管を
はいっ
それからモモン草の管をとってきて
んっ


やっ
糖ノ目君
ひさしぶり
じゃのう
…おまえか…
ポン
スミレ博士
どうして
ここに!?
おほほほ
お主を
つけて
来たのじゃよ
えーーっ!!
やれやれ…
おまえに言っても
ムダだろうが
研究のジャマを
しないでくれよ
ジャマなど
しないぞよ
ただねえ…
アレを作って
ほしいのじゃ


アレ？
ホラ 腹倉魚屋に 作ってやった 変な器械だよーっ
沼の中から起き出して すーぐ ぶっ壊れたけどさ
沼から起き出して すぐ壊れた!?
そうよ
イラッシャイマセ イラッシャイマセって 首から煙出るまで おじぎして爆発 したぞ
「木意慕」は 水に弱いんだよ
キイボ？
あの器械のことさ
木を意のままに 慕わせるという 技術開発で 木意慕と名づけ られているんだ
まだ誰も成功した 者はおらんがな


成功してくれえ
実験のためならなんでもするぞう
あらら
見つけちまったのか…
にゃ!!
オレに隠してもムダなのさ
みーんなお見通しよォ
博士
こんちは木恵裏の実験は進んでますか
8回目の種を作っているところだ
8回目の種
なんだろ
魚の種かしら?



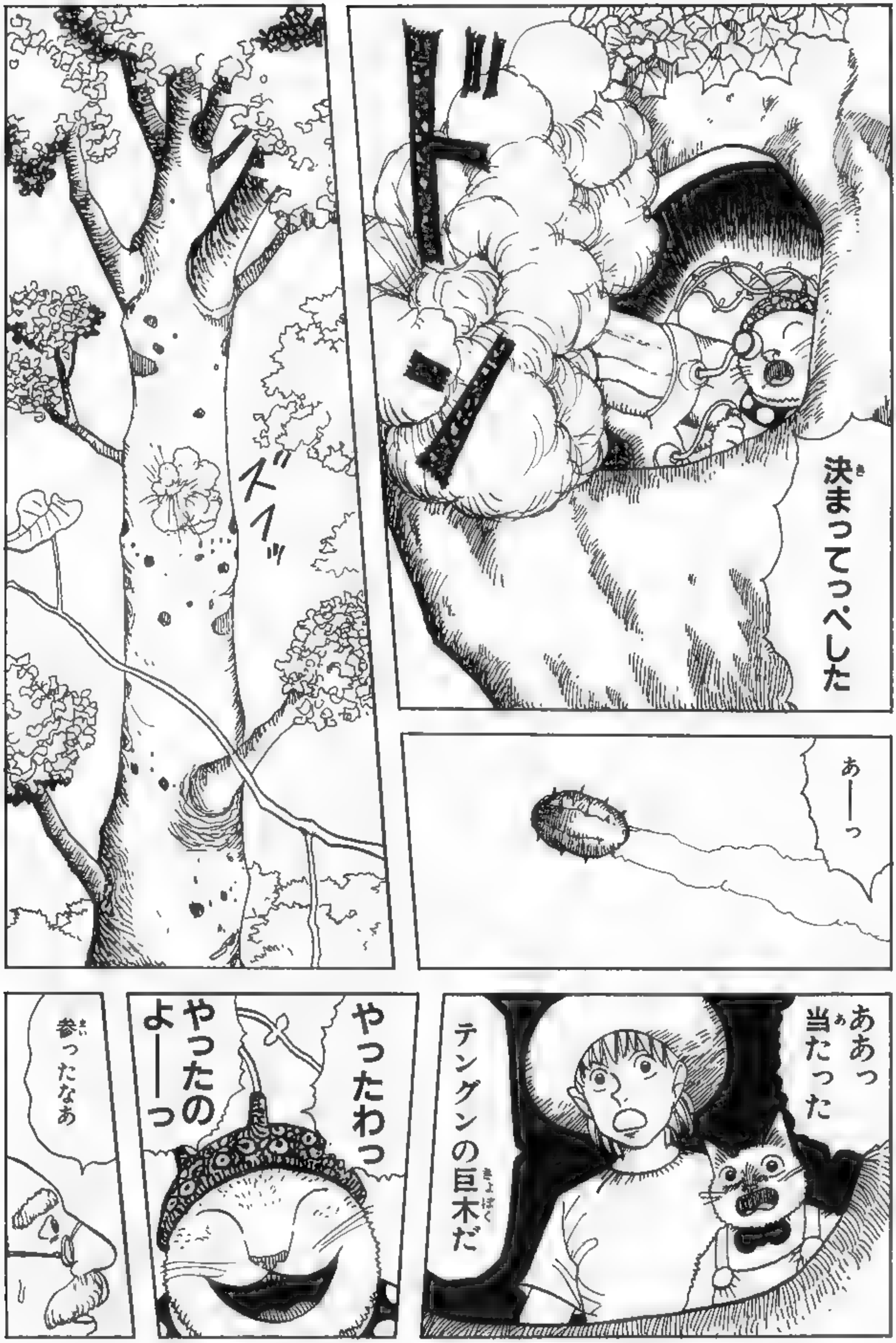
これが木意慕の種だよ
だが栄養の配分が難しくてなあ
どうも反応が弱いんだ…
んっ
あっ
輝いたっ
種がヒデヨシに反応してる!!


えっ!?
どういうことですか!?
ううむ…判らん
ヒデヨシ君を嫌がってるんじゃないでしょかっ
違うわよヒデ丸
オレを気に入ってるのすああっ
拒否か……興味ありか…難しいところだが
よし
砲主をヒデヨシにしよう
えーーっ
はて…？なんのことやら


ほほほ面白そー
博士 ホントにヒデヨシ君でいいんですか
ううむ…
8個目の種がやっと反応したんだ これに賭けてみよう
どうしたんだい ヒデ丸?
あの種は砲主の影響を受けるんです



種が砲主の影響を？
ああっ 肉体的な強さや 精神的な強さ
なにしろ砲主が強烈じゃないと発芽しないんだ
でも ヒデヨシ君にさせるというのは・・・
怪物に怪物を造らせるようなもんですよ
なんかよくはわかんないけど オレも止めた方がいいと思いますよ
肉体的精神的な強さだったらギルバルスがいますよ
そうか！彼に頼めばいいんだ
というわけだ
ヒデヨシ ご苦労だった
ご苦労はこれからよ
座った以上ぶっ放すに

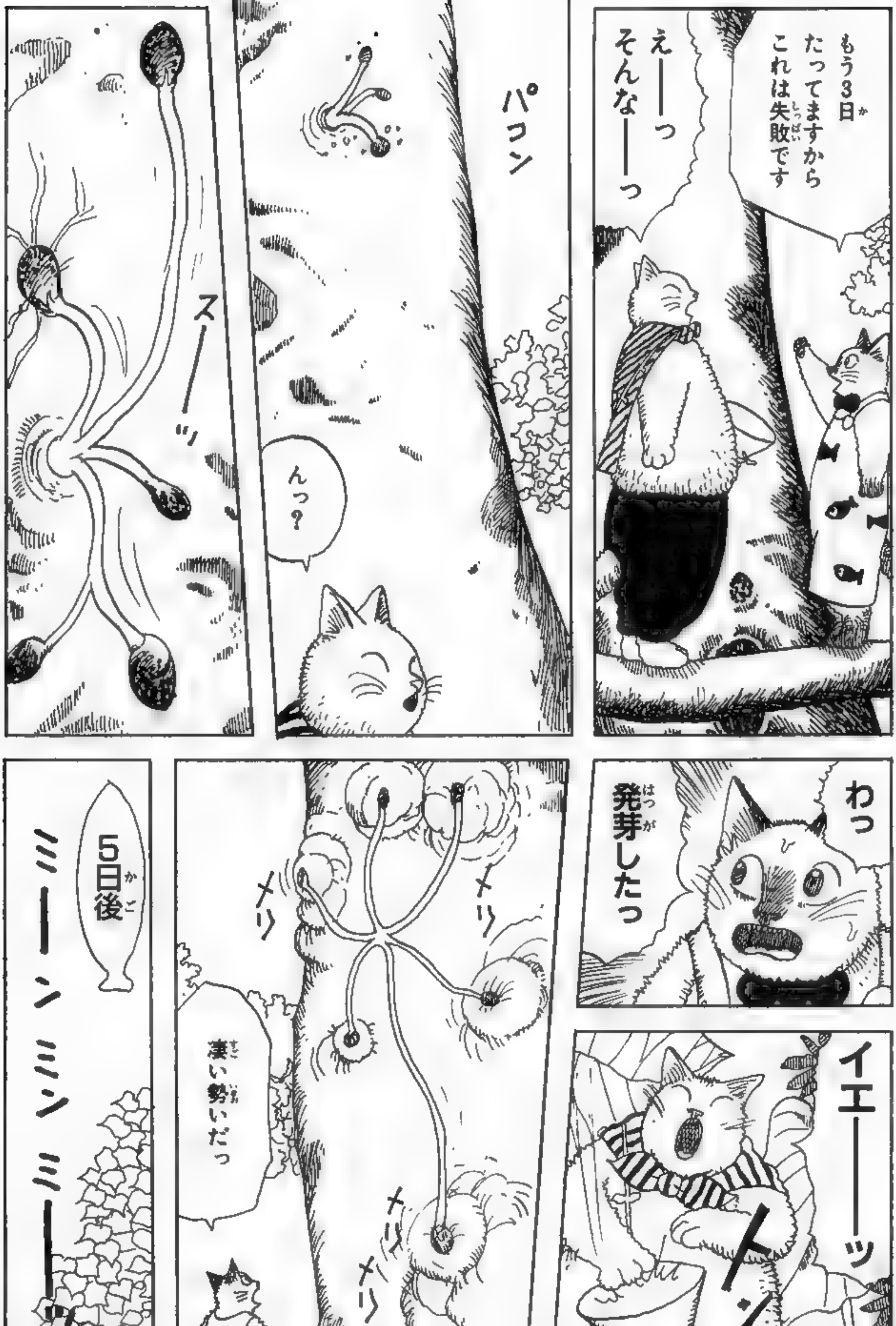

ドドーン
決まってっぺした
あーっ
ズイッ
ああっ当たった
テングンの巨木だ
やったわっ
やったのよーっ
参ったなあ



しっかり めりこんで いますね
これで 発芽すれば いいんですが
するわっ 絶対 するわよォ
してほしい ような
ほしくない ような
3日後
ミーン
ミーン
あれ
なにやってんだ アイツ



タタン
発芽しろっ
それ発芽しろっ
タン
おまえなにやってんだ?
タン
発芽をうながしているんだな
タン
そんな雑音たてて発芽するわけないだろう
ヒデヨシ君この種失敗ですよ
失敗?
ええ…今まで発芽した種はみんな翌日に生えたんです

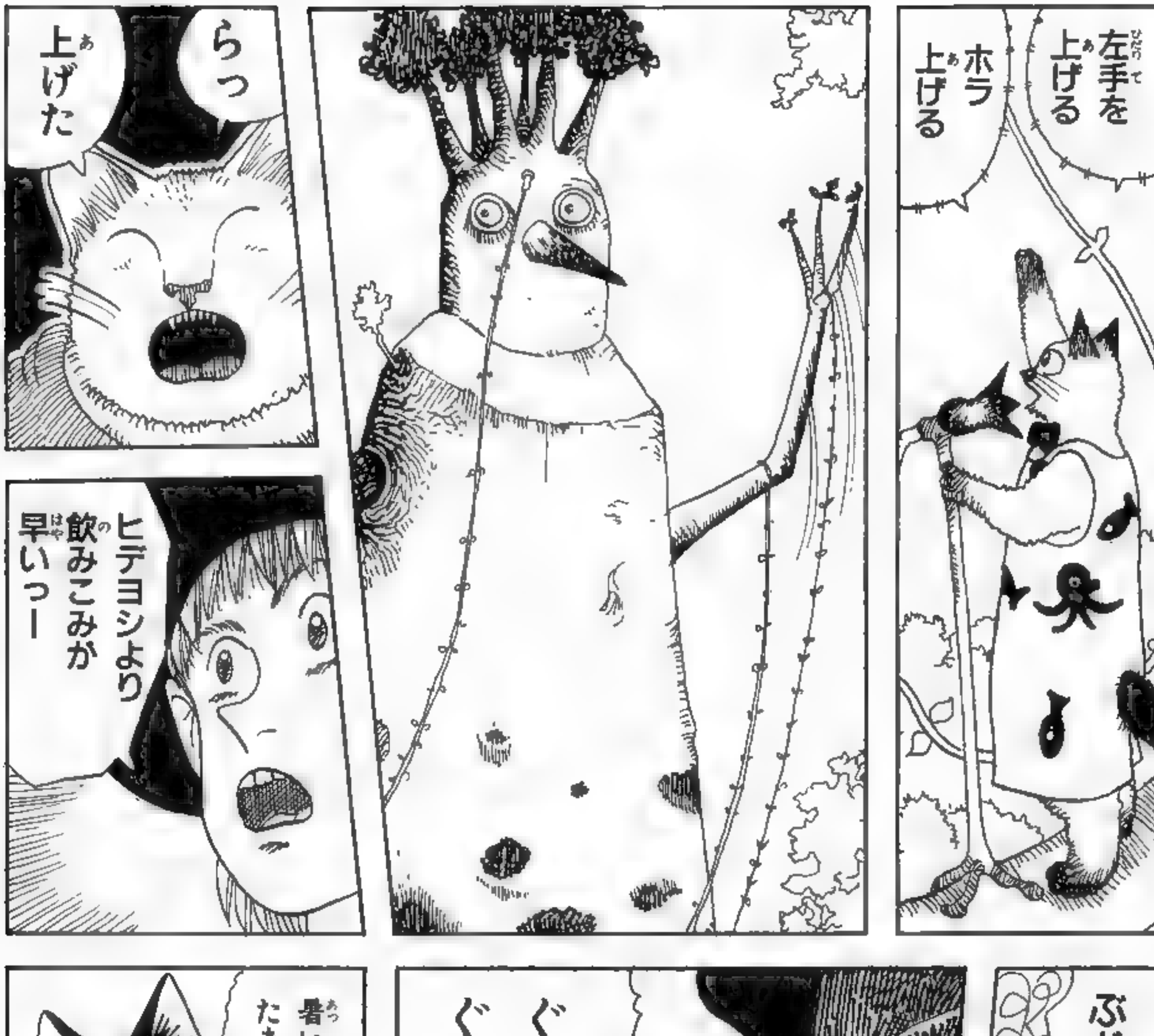


もう3日たってますからこれは失敗です
えーっそんなーっ
パコン
んっ?
スーーッ
わっ
発芽したっ
イエーーーッ
トン
メリ
メリ
メリメリ
凄い勢いだっ
5日後
ミーンミンミーー


ずいぶん出来てきたなあ
名前をつけなくてはいけませんねえ
こいつの名前はキッキだっ
キッキ？


そーだ
おまえの名前は
キッキだぞう
キッキちゃーーんっ
あっ
目があいた
ヒデヨシの声に
反応してるのか!?
砲主だからな
砲主の意のままに
なるんだ
意のまま!!


ミーーン
ミンミーーッ
よーし 行くぞ キッキ
ひ・だ・り・て
左手…
パチッ
これが左手だよ
パチ
なにやってんだ ヒデ丸？
キッキに言葉を教えてるんですよ
言葉なんて憶えられるのかい？
あの種の中に言語を感じる器官が入ってるのです


左手を上げる
ホラ上げる
らっ上げた
ヒデヨシより飲みこみが早いっー
ぶがががっ
ぐーっ ぐーっ
暑いよ〜〜っ たまんないよ〜〜っ
ゴッ


なんだ
あれはっ
イェーーッ
ガサササ
ガサ
すげえ
木の化け物が
動いてるぞっ
ドラネコ団
こいつは
キッキつーんだよ
キッキ？



オレの言うこと聞くんだぜっ
キッキはらっ踊るのよーっ
フッ
あっ笑った
ああ…せせら笑ったぞ
コラッ どこ行くんだっ
ザザ
ガサ
ザッ
ザザ
ぜんぜん言うこと聞かないべよ
うーっっ
ガサ
ガサ
ガサ
んっ
ヒデヨシの根性が遺伝してるというか…
これはいわゆる



魚たかりですね

# 第二話　木意慕②　植物視線




おーい キッキ
キッキちゃーん
ガザザ
ザ
おまえ 口(くち)ないのに 魚(さかな)なんか 食(た)べられないだろーっ
だから それ オレに くれよーっ
情(なさ)けないことを…
魚屋(さかなや)から たかる奴(やつ)
たかった魚(さかな)を
にゃっ
あらっ

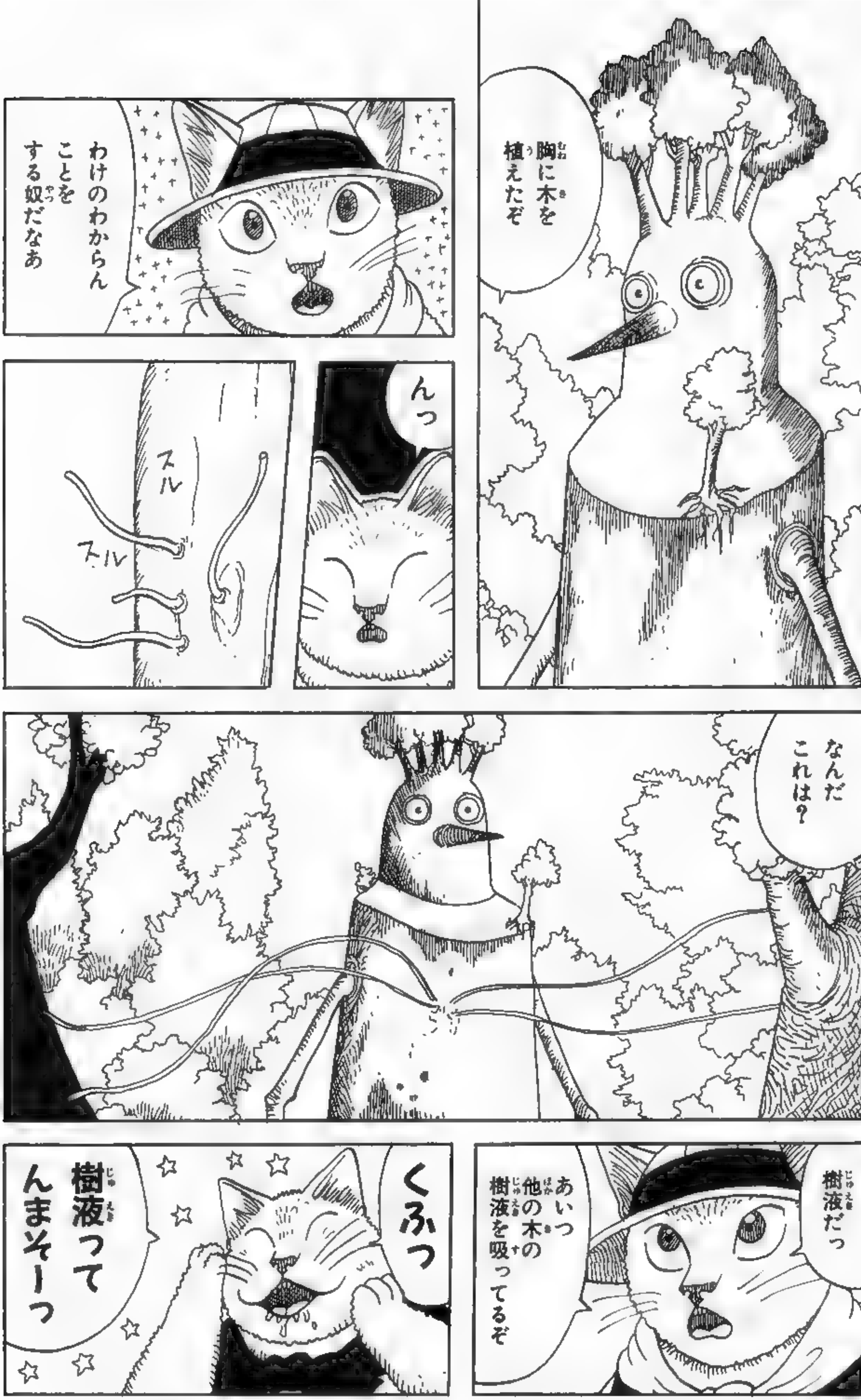

根から吸収しようとしてるぞ
トトン
吸収やめろーっ
オレにくれええっ
フッ
んめええ
なんか情けないですねぇ
情けじゃ満腹できないのよ
あっ
コラ
どこへ行く
そっちへ行ったら蛇腹沼だぞっ
水に入ったら爆発するぞーーっ


あーーあ
入っちまった
うむむ　もうダメだな
ダメですか!?
木意墓の
弱点は水だ
水に入ると
関節から水が
しみてきて　中の
器官がもたないんだ
あれれ
なんか
平気
みたいだぞ
やっぱり
ヒデヨシ君の
ケダモノじみた体力が
効いてるんですねっ
ケダモノ
イエーッ
キッキ
もどって
来ーーいっ

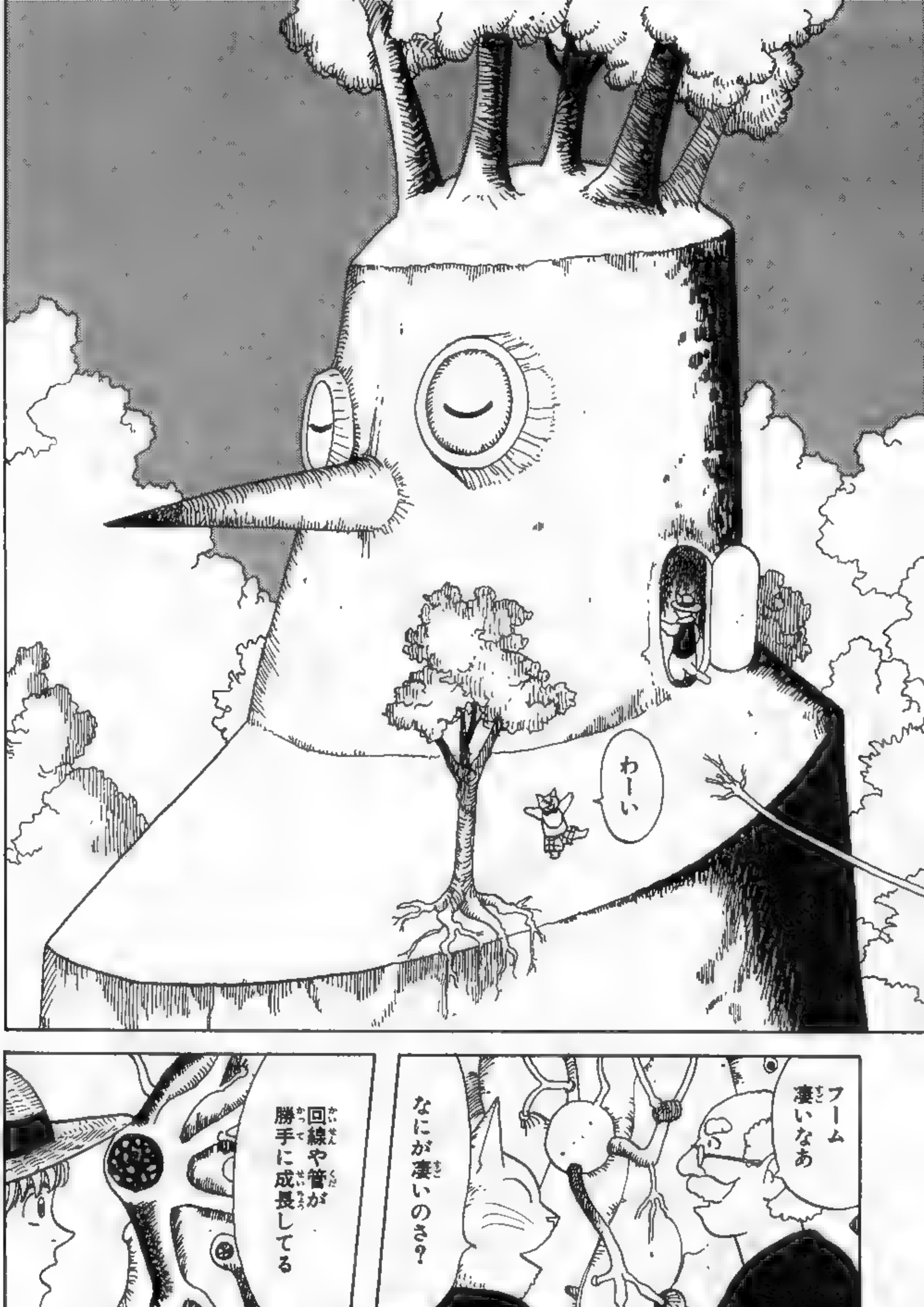

ヘッ
またせせら笑ってますね
あいつぜんぜん言うこと聞かねーっ
操縦器を改良しなくてはならんな
やあスゴイな
おっツキミ姫
なんだいアレは？
木の器械だよキッキっていうのさ
キッキ
ああ勝手にうろついているのよ


そうでもないな
へっ？
なにかを探しているみたいだ
なにかを探してる!?
魚屋じゃないの？
ついて行きましょーっ
ガサガサ
んっ
バリバリ


木なんか引っこぬいて
どうするつもりだ？
ヒカマッカの木だな
なんだろう 手から なにか吹きかけてるぞ
あれれ
なにやってんだ キッキ？


胸に木を植えたぞ
わけのわからんことをする奴だなあ
んっ
スル
スル
なんだこれは？
樹液だっ
あいつ他の木の樹液を吸ってるぞ
くふっ
樹液ってんまそーっ


あっちこっちの木の樹液をすするなんてなんなんだ!!
いかにもヒデヨシ君的ですね
あれれ…眠り始めた
さんざんすすったらあとは寝る
おまえの行動とそっくりだね
そーかしら
よし眠っている間に奴の頭部に入ろう


わーい
フーム 凄いなあ
なにが凄いのさ?
回線や管が勝手に成長してる


これが
キッキの目玉から
見た景色か
あーっ
ここ ブヨブヨ
してるなーっ
あっ
空に粒々がっ
ヒデヨシ
そこを
もっと
押してみろ
こうか?
ぐっ
おおっ
なんだこれは?
これは
たぶん


今 植物たちが見ている空の星だ
星っ
昼間なのに星が見えるのかっ
植物は光に反応する能力が強いから昼の星の微光でも見分けられるんだな
植物視線だね……



オレたちには感じられないものを
植物たちはとらえているってわけだ
フーム この辺も
ブヨブヨしてますねえ
あれっ
ヒデ丸もっと押してみて
こう ですか
ぐっ
星がどんどん拡大されていくぞ
うん
星メガネより凄いや
んっ


なんだろう
この星
なにか
吹き上げて
いるな
不思議です
ねえ
どうやら
このあたりが
視神経の
器官が集まって
るようだが…
この赤っぽい管が
気になるな
では
引っぱってみよう
ぐっ
コラ なに
やってんだ
あっ

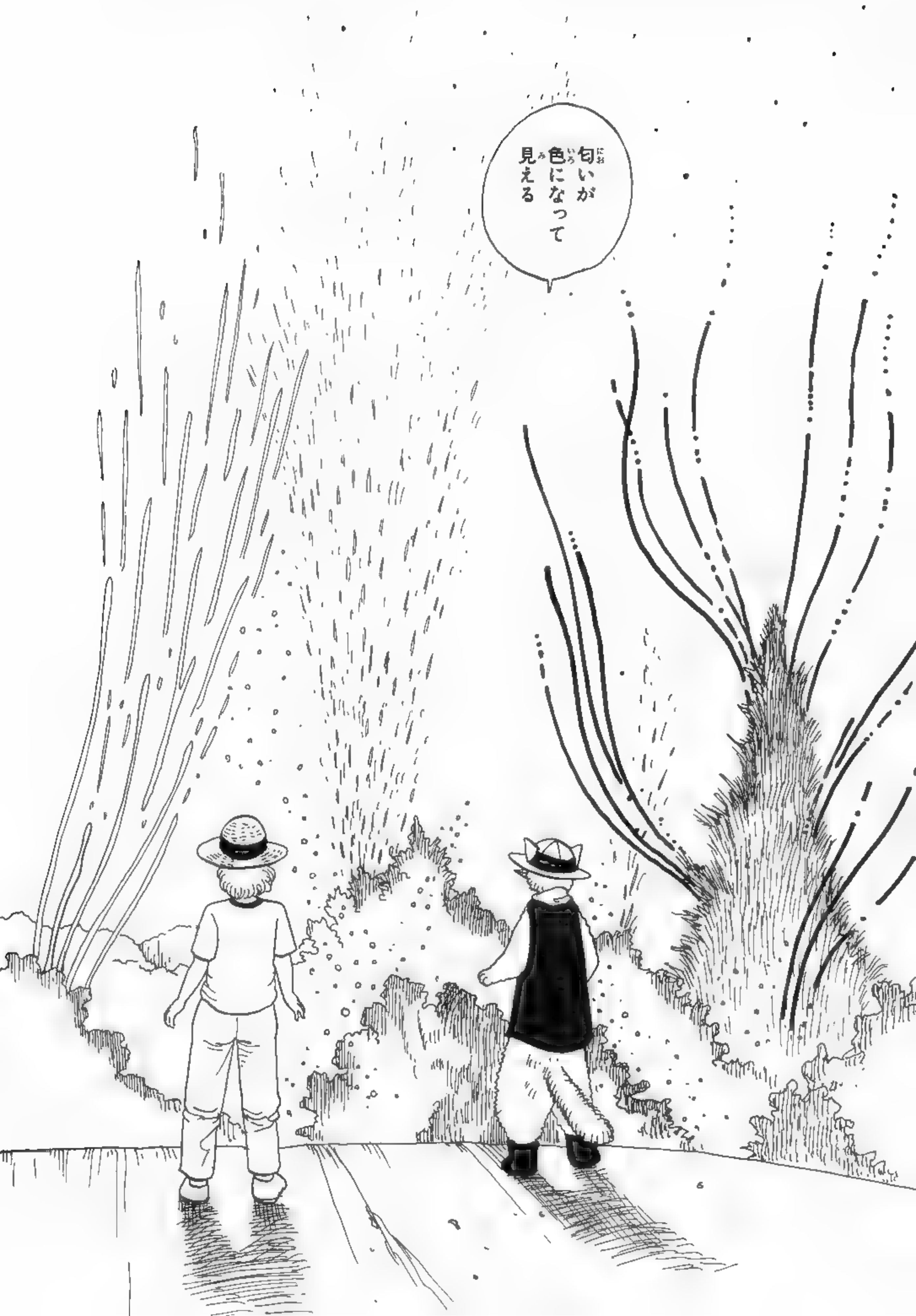

おおっ
わっ
森が
凄ーーっ
ちょっとっ
森がどう
したのよっ
スーーーッ
あれっ
瞼が
落ちてきた
ちょっと
キッキ
見えないぞっ
コラーッ
オレにも
見せろう

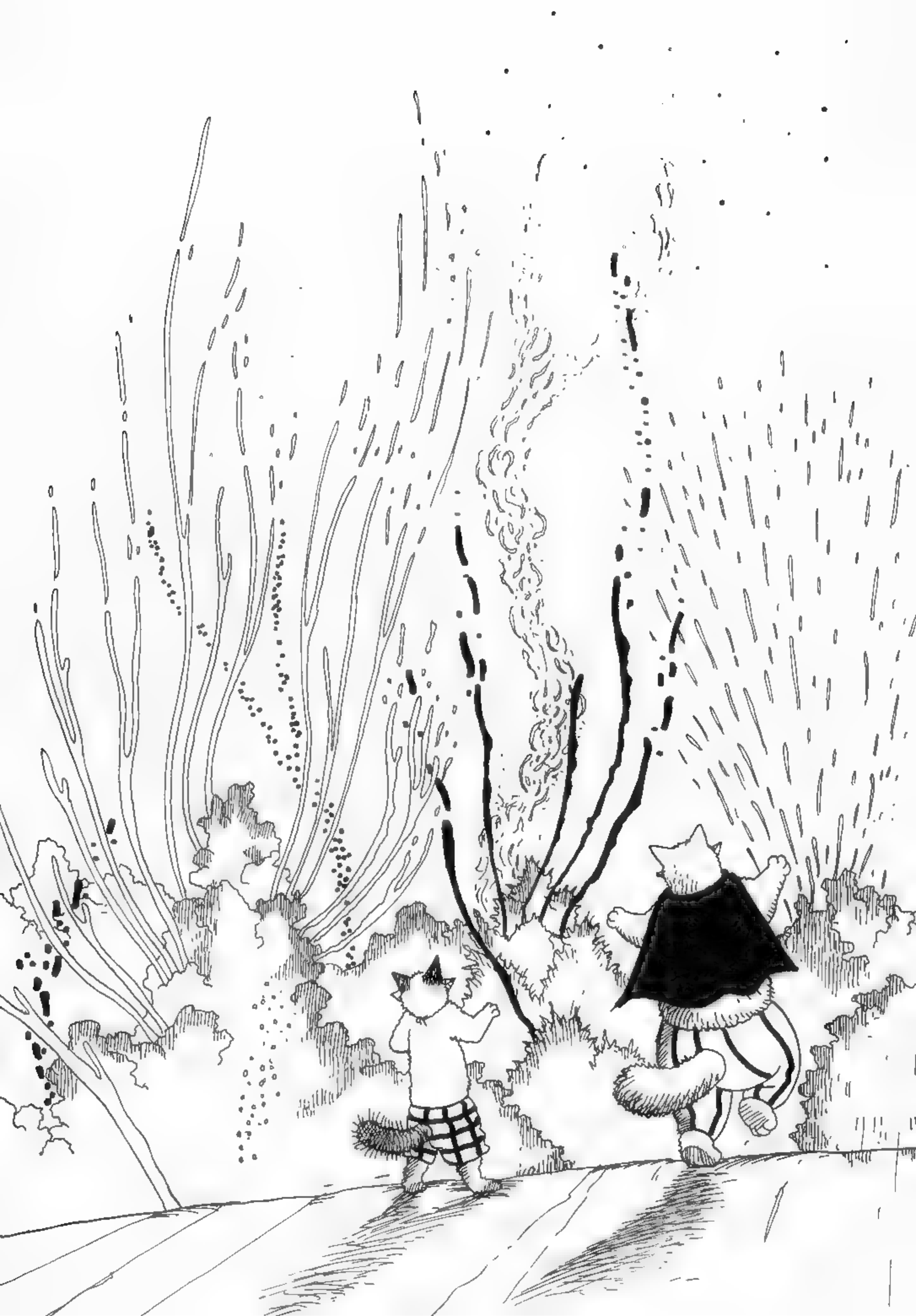

らっ
ゼニ
ヨロシク
スー
ッ
なんだよ
これ？
ゼニ
ヨロシク
もっと見たけりゃ銭よこせってことか!?
じゃあげてみよう
ワーッ
外ノ木ダ
外ノ木ダ
外の木？


外の木ってなんだ?
外の木…
キッキが胸に植えた木のことかな
ああ ヒカマッカの木かっ
ん
なんだコレっ


先端の葉が変形してメガネの型になってるぞ
では さっそくかけてみよう
んっ
ゼニヨロシク
つんつん
略シテ
ゼニヨロ
なにがゼニヨロだっ 銭銭うるさいのよっ
おまえに似て欲深いんだろ
ホラ
フーム
これじゃドラネコ団のチャチャ丸だぜ


あれ
ああ
ハッカの匂いがする
激夏ミカンの匂いもしますよっ
なんだか急に嗅覚が鋭くなってきたぞ
うっ なんだ これはっ
いろんな植物からの


匂いが色になって見える




凄〜〜っ
匂いだけじゃないな
木の幹や葉から出てるいろんな物質が色彩を作っている
いろんな物質？
ああ
たとえば…森の中に入ると気分が変わるだろう
それは森の匂いのせいだけじゃなく植物たちが放っている見えない物質を
吸いこんでいるからさ
その見えないものが色や形になって漂っているんだっ
素晴らしき緑なり



空には昼間っから星だらけだし
植物視線ってやるじゃないのーっ
もしかして…
さっき キッキの瞳で拡大してた時に見た星って…
ああっ……あの星から漂っていたのは
あの星に住む植物が放出していたものだっ
なんだとっ
でも今オイラが見ている星の光にはずいぶん昔のものもあるんですよね
うん そうだね
…あの星…


今も緑に包まれているのかなあ

# 第三話　絵の具を買いに




すっかり囲(かこ)まれてしまった


でも呪文を言えば離れていくさ


「描ク描ク詩カ字カ」
「描ク描ク詩カ字カ」
ケッ
そんな呪文はもう 効かないぜ
ゼンマイ魚に囲まれたらじっとしてるしかないんだよ
ヘタに動くと
足なんか こんな風にかじられちゃうのよ
痛そうですね
クーーッ


ところで アンタ
こんな砂の海に なにしに来たのか？
絵の具を 買いに…
絵の具屋なんて あったかなあ…
でもホラ 絵の具の匂いが しますよ
ああ時々 絵の具の 匂いはする
とても プンプンと
絵の具 買いたいけど
動いたら かじられる
！
ドン
夢を

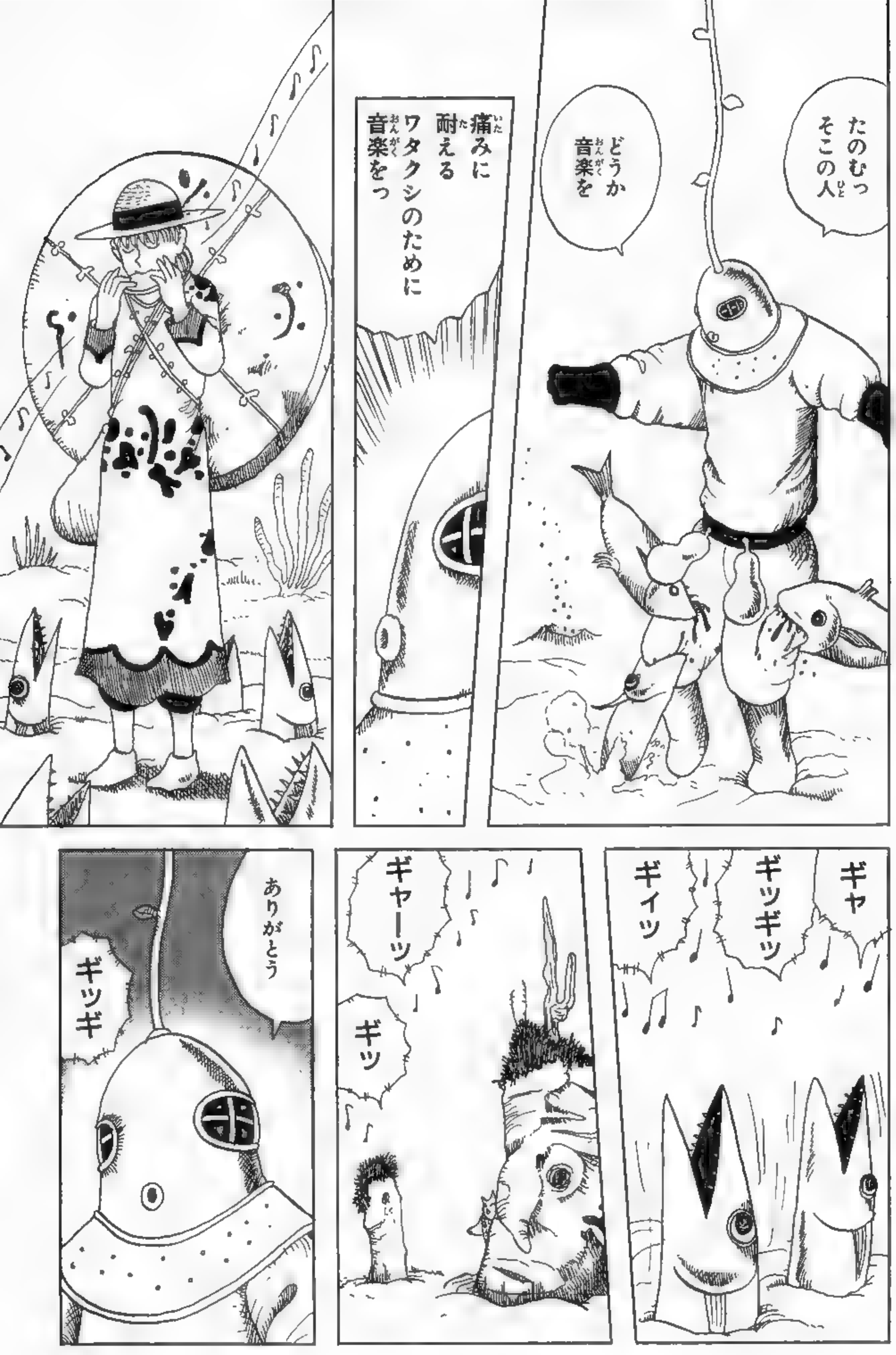


ドン
持ってるかーい
でん
ほっ
ここで質問です
なんだい



オレが背おっているのはなんでしょう？
ホレホレ
軽石で出来てます
古代の……お金かなあ
ハズレであります
こら なにをする
罰です
じゃあね


重いい……
ああ
助けてくれ
危機的状況であります
激痛最悪で
かじられている



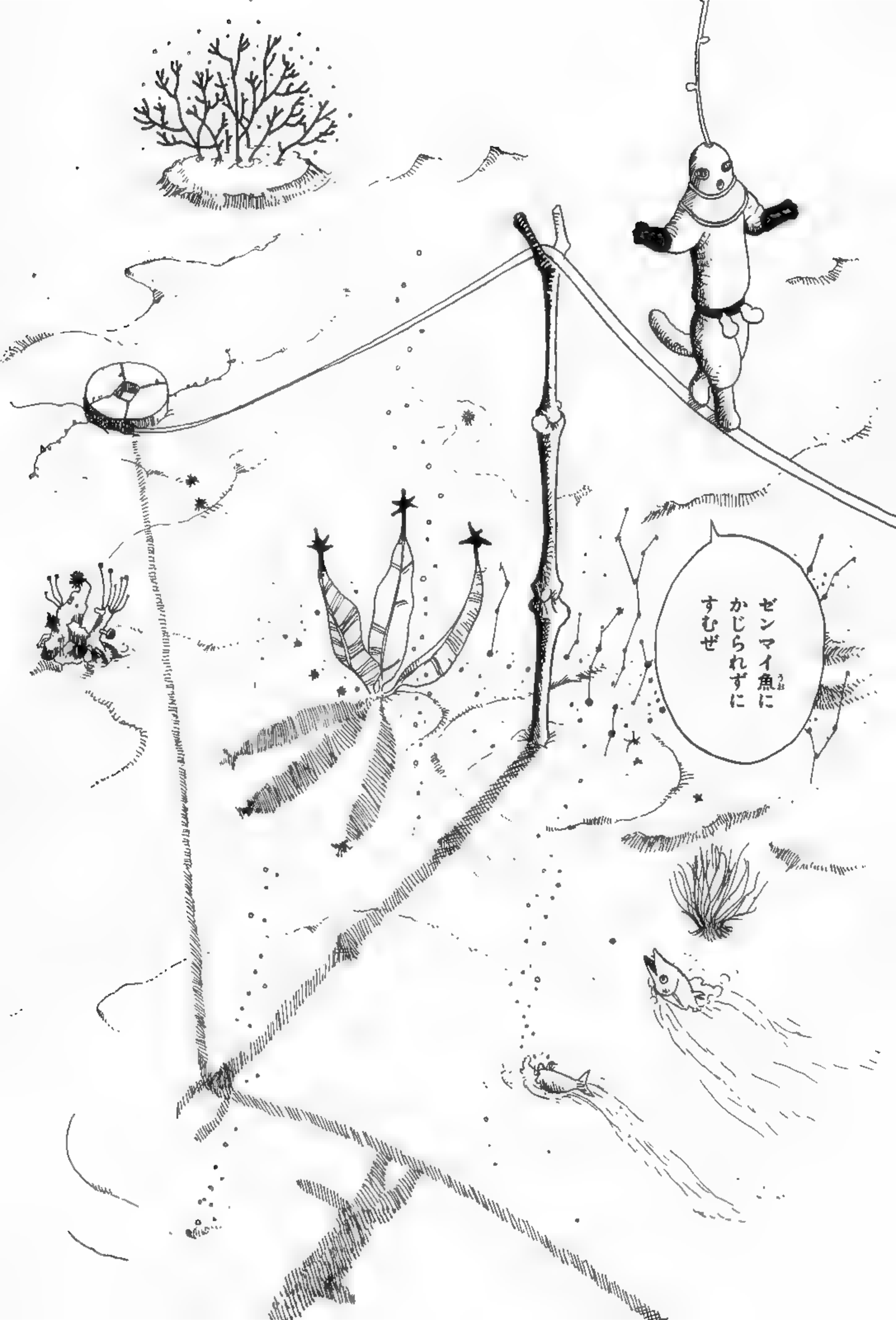
たのむっ
そこの人
どうか
音楽を
痛みに
耐える
ワタクシのために
音楽をっ
ギャ
ギッギッ
ギイッ
ギャーッ
ギッ
ありがとう
ギッギ



オレは解放された
魚がこっちに来てしまった
ギャッ
ところで絵の具の匂いがしますね
鯨油草の匂いだよ
鯨油草!?
ああ油絵の具の匂いに似てるのさ
ところでアンタ

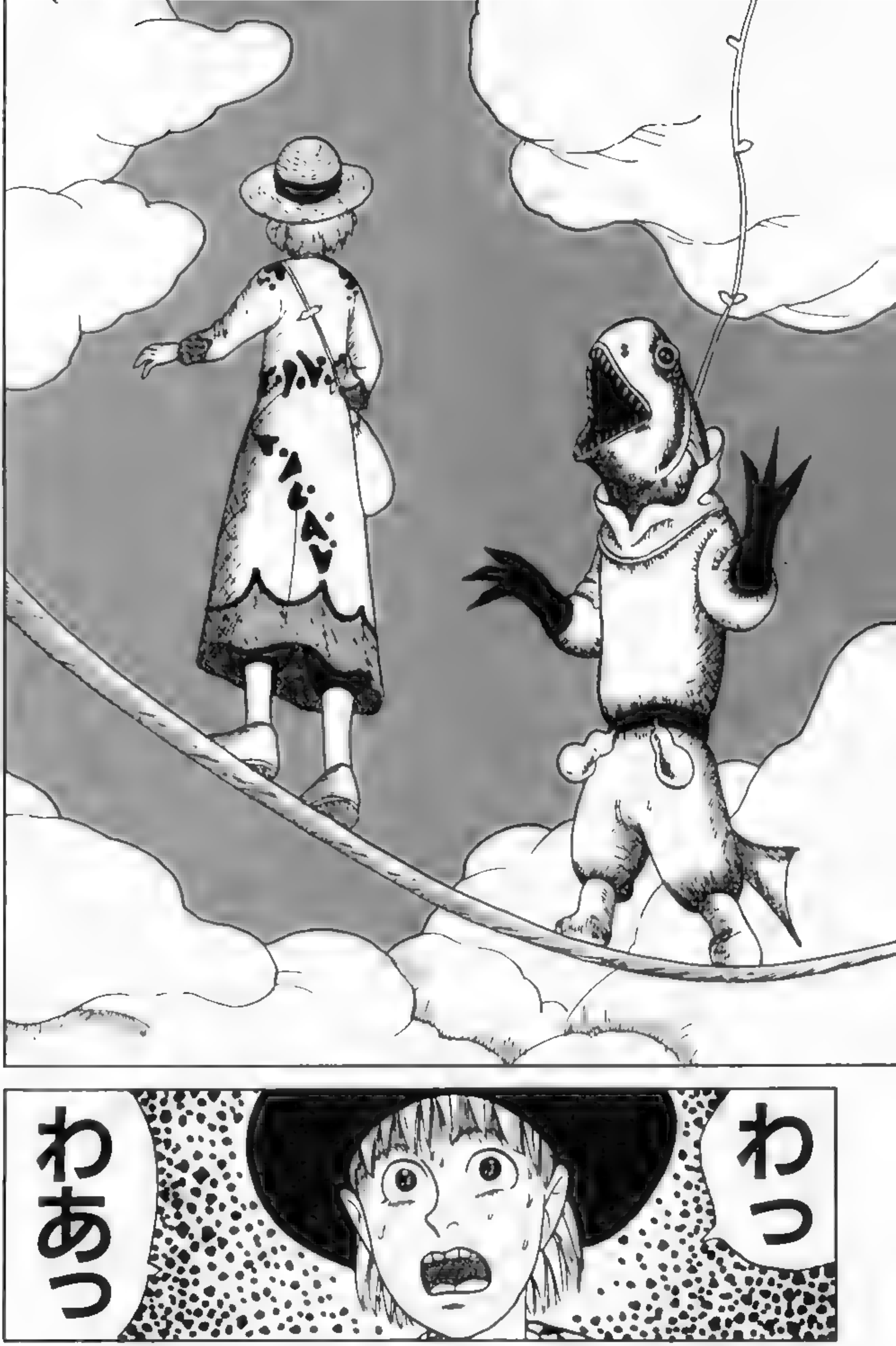

ずいぶん素敵なものを背おっているな
素敵なもの?
ガラ
ガララ
こうやってね
ニーン
ニーン
あ…
なるほど


これは素敵だ


ゼンマイ魚にかじられずにすむぜ


昔 このあたりに ゼンマイ魚なんて いなかった
みんな 煙男の せいなんだ
煙男!?
ホラ あいつの煙草の 煙のせいで 魚が増えたんだ
ヤニ・パンツだ


あれ
あの影……猫の型してるぞ
ゼンマイ魚がかじった相手の影だよ
かじった相手の…

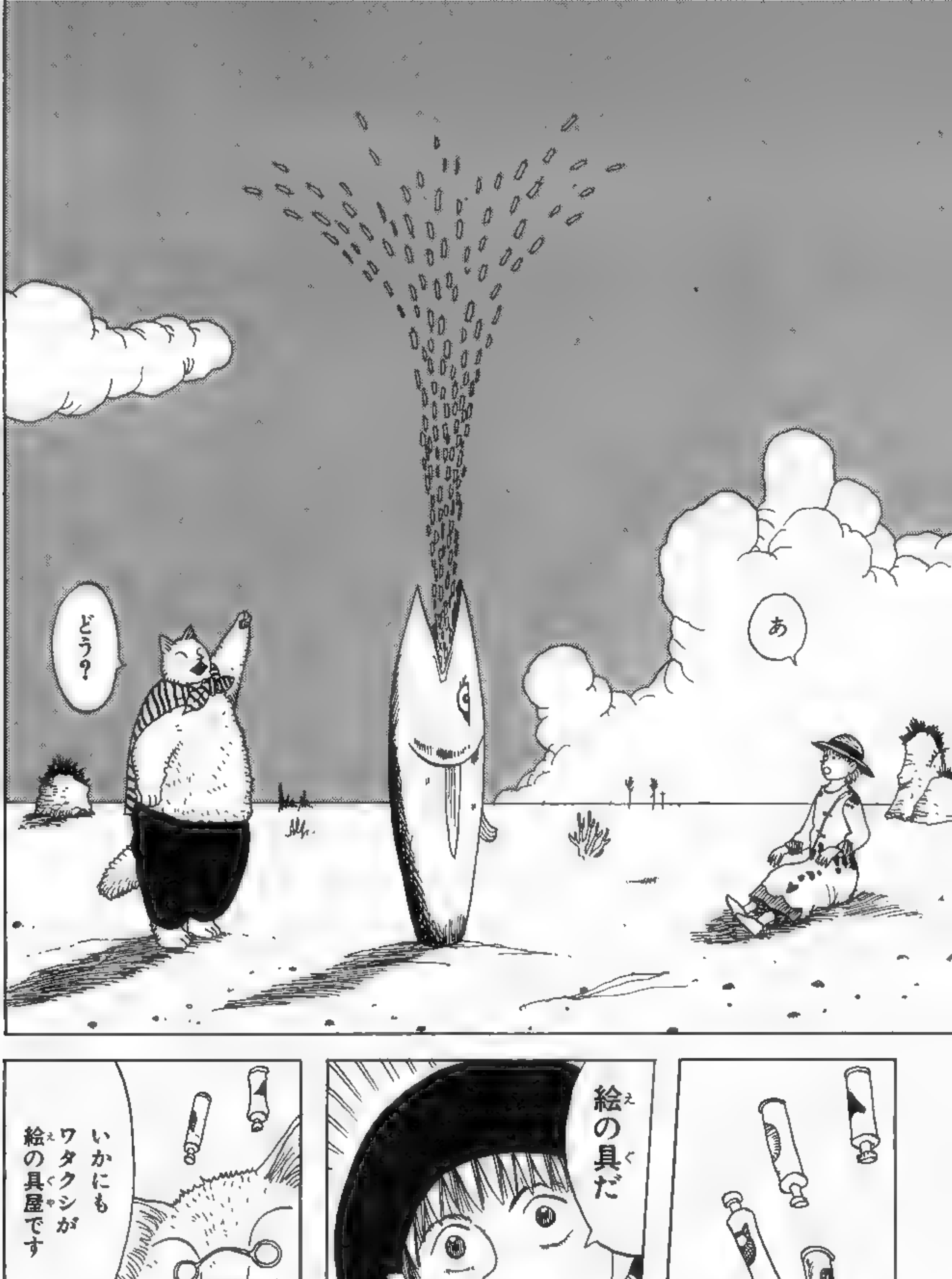

わっ
わあっ


食ってやる
食ってやる
がん
ばれ
魚
ドラネコ団めっ
ゆるさんぞ
絵の具を
買うだとっ
鯨油草様が
おゆるしなさると
思ってるのくあっ



ギザギザに食ってやる
わっ
こっちも
ギッ
ギャ
ああ だめだっ
ぐわっ
鯨油草の家来なんかに
ドフッ
なるわけねーべよっ
ボグッ


ゲッ
ふう
やったね
ずいぶんでかいのをしとめたな
ズブズブ
ボカッ


あ
どう？
絵の具だ
いかにもワタクシが絵の具屋です



絵の具下さい
絶賛発売中
ボフ
さて なに描くか…
しっかり聞きます
胸の中の海の調べ
ゆらゆら ゆれて
波に 合わせて
筆ハ イラナイ







# 第四話　痛読街道




ずいぶん[redacted]めましたね
まあな

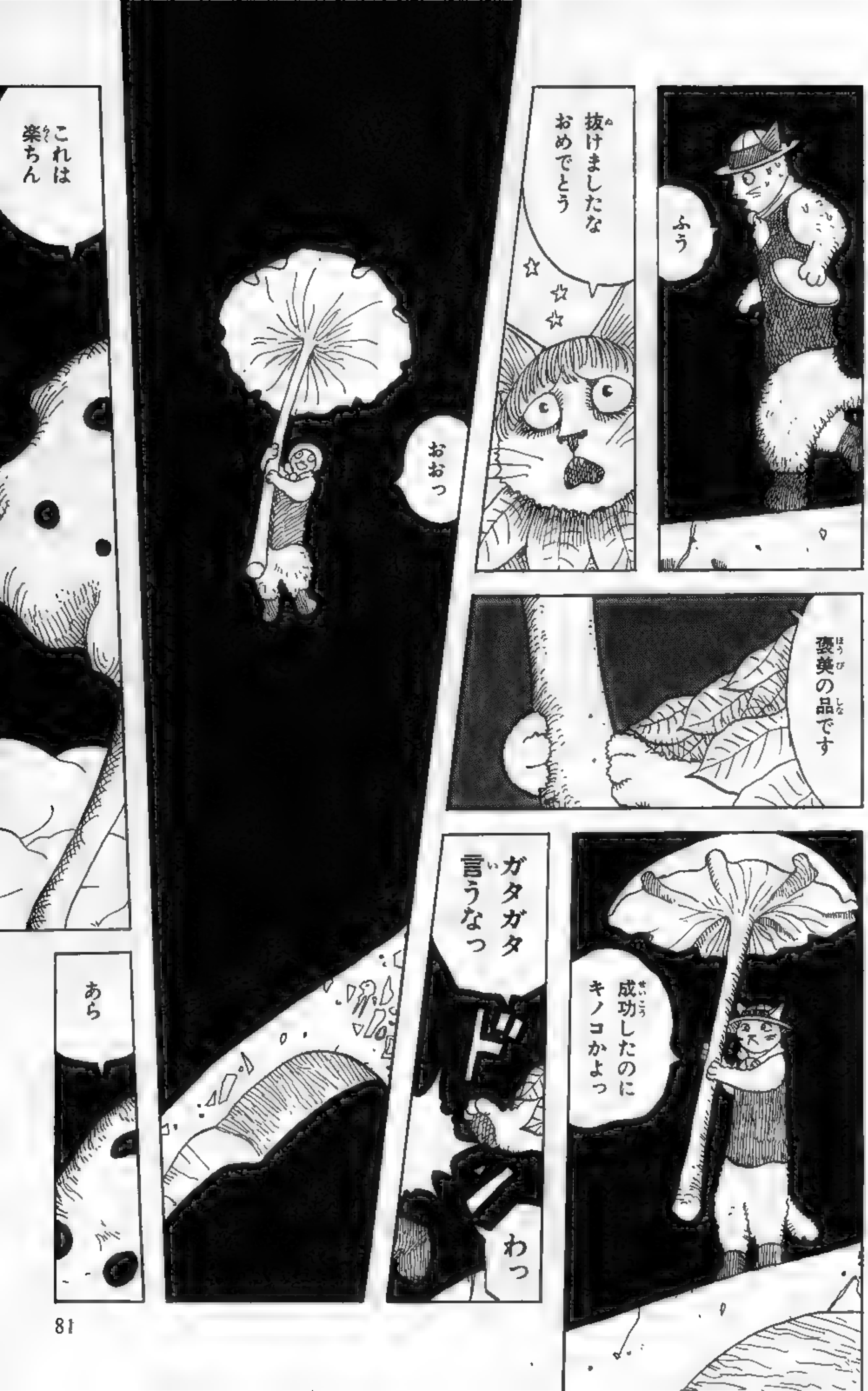




1つ持っていくか
月光で十分さ
では一曲所望したい
……「逆版ノ月」
よかろう
銅貨2枚
前金で
有料かよ


んっ
1つでも
引っかかったら……
すおうっと
カタッ
あーーっ
わかってます


そこの男っ
見のがして下さいっ
やっとここまで来たんですう
痛読街道の掟である
わ〜〜〜〜っ
あんなキノコの傘じゃ助からん
次はお主かな
ぬぬぬ
キノコの傘は嫌じゃ



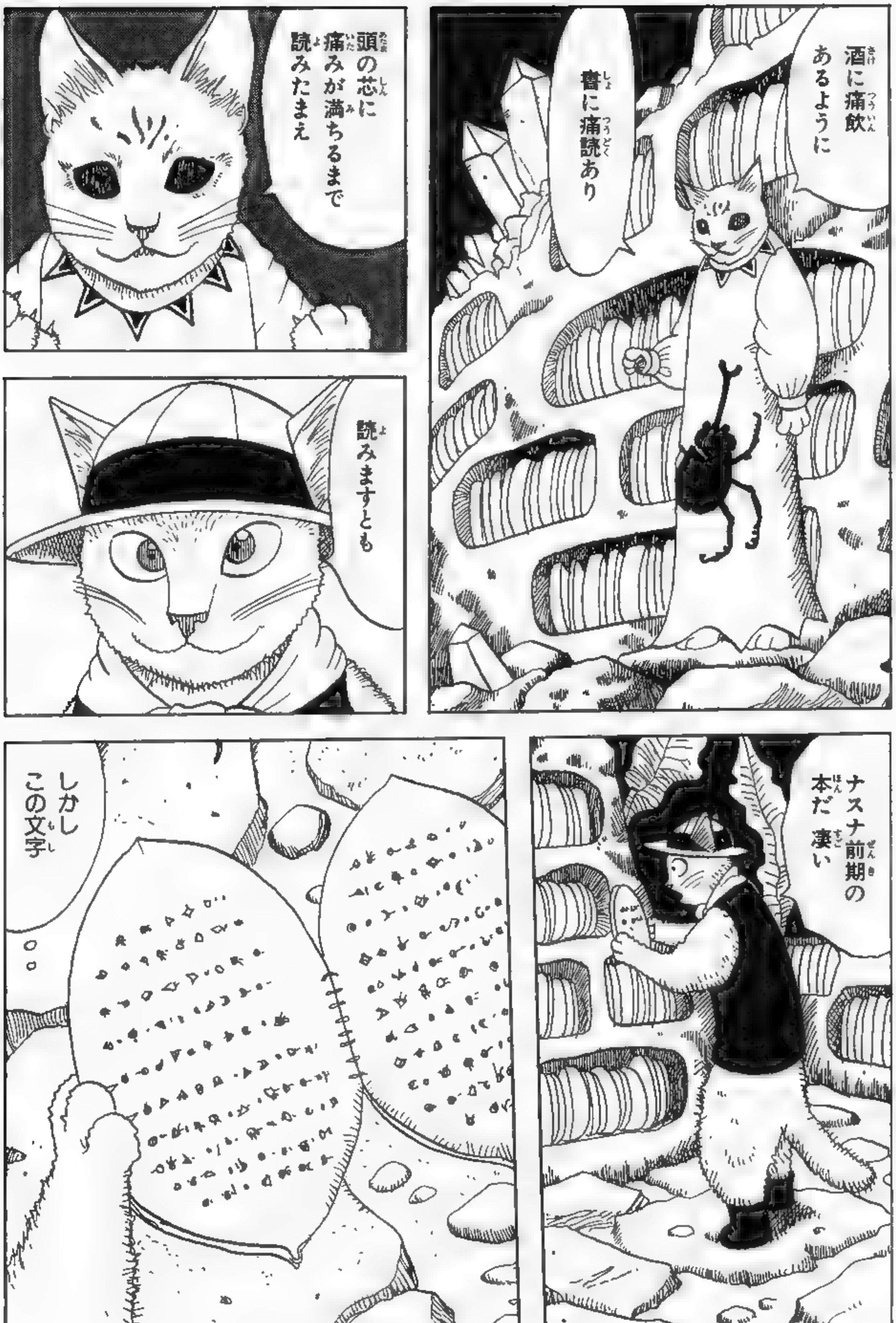
ふう
抜けましたな
おめでとう
おおっ
これは楽ちん
褒美の品です
成功したのに
キノコかよっ
ガタガタ
言うなっ
わっ
あら


ありゃ
下に伸びる
ぬるぬる
ダメだ
滑り落ちる
君は
なにやっとるのか
商品の盆栽に
登っちゃ
困ります
月光盆栽は
繊細なのだ
すいません


水まき終わったよ
次は草むしり
……
こらーっ逃げるのかあ
ハアハア
おお来たっ


んでも読んでも

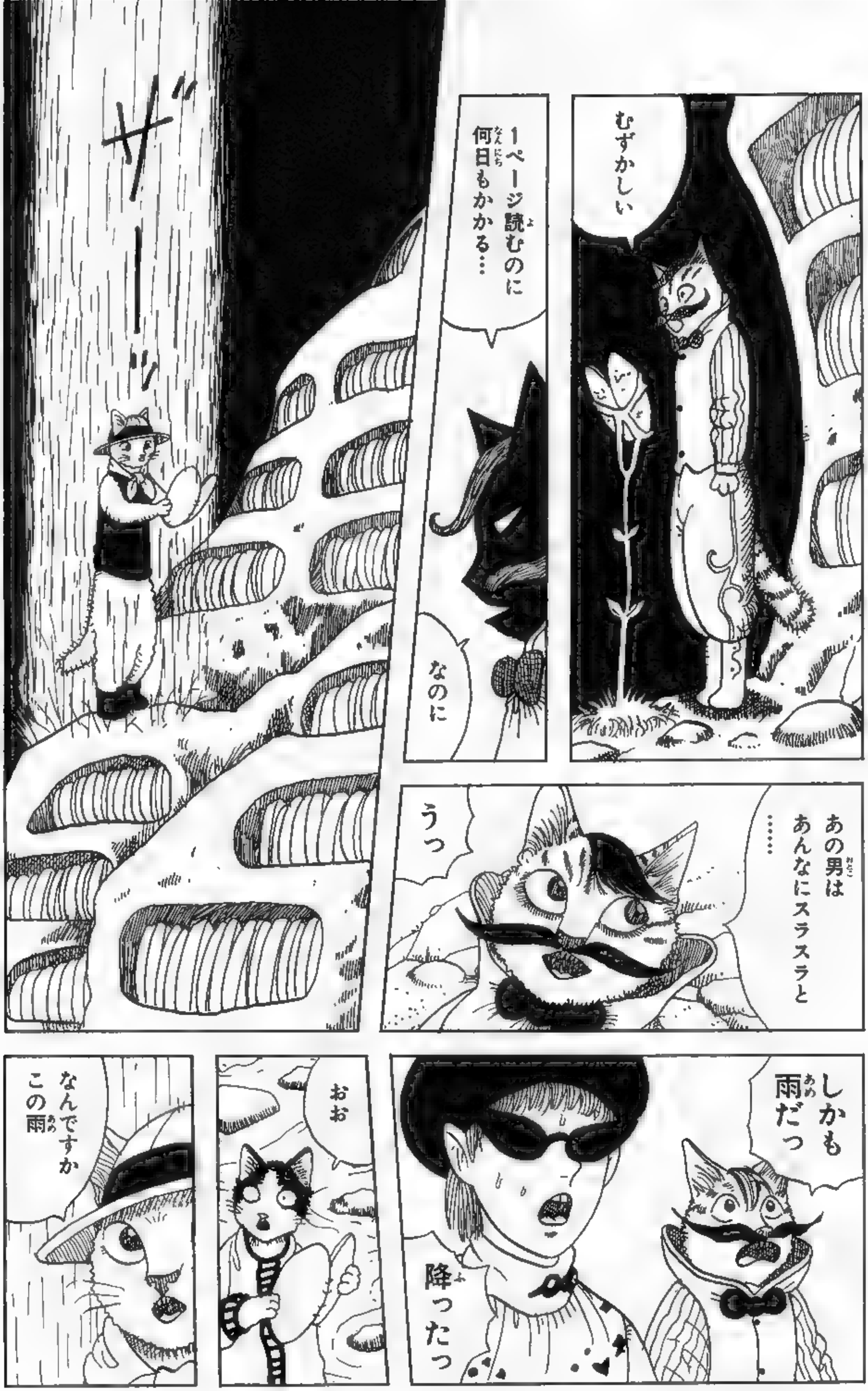



酒に痛飲あるように
書に痛読あり
頭の芯に痛みが満ちるまで読みたまえ
読みますとも
ナスナ前期の本だ 凄い
しかし この文字


こんな象形文字見たことないぞ
この本も
この本も
こんなにたくさんあるのに読めないなんてっ
お客様
お静かに
他の読書家に迷惑です
すいません
文字の読み方が判らないのですっ
それならあの方へ


ごめんください
文字を教えて下さい
ほう そんな帽子をかぶっているのに
字も読めんのかね
そんな年齢で字も読めず恥ずかしくないのかね
よろしくお願いします
う
い
あ
く
き
か


ら
ら
判りましたか？
にゃっ
上に登るほど難解な書籍が並びます
だんだん濃度が増すのですな


ザーーッ
むずかしい
1ページ読むのに
何日もかかる…
なのに
あの男は
あんなにスラスラと
……
うっ
しかも
雨だっ
降ったっ
おお
なんですか
この雨


晴耕雨読の雨です
ザー
晴耕雨読…私の場合は
晴読雨読だな
それにしてもこの雨が降るのは
ホントにめずらしい
雨降り降り降り尾っぽ降りポン
こらーーっおまえーーっ
カタツムリの乗り入れは禁止であるぞ


雨の匂いが好きなのすあ
速読にして理解力抜群
ザーッ
あんな高度な所まで行ったぞ
これはひょっとして…登頂するかも
登頂!!
ああ あのあたりは古代海洋語 読める奴など いないのだから…

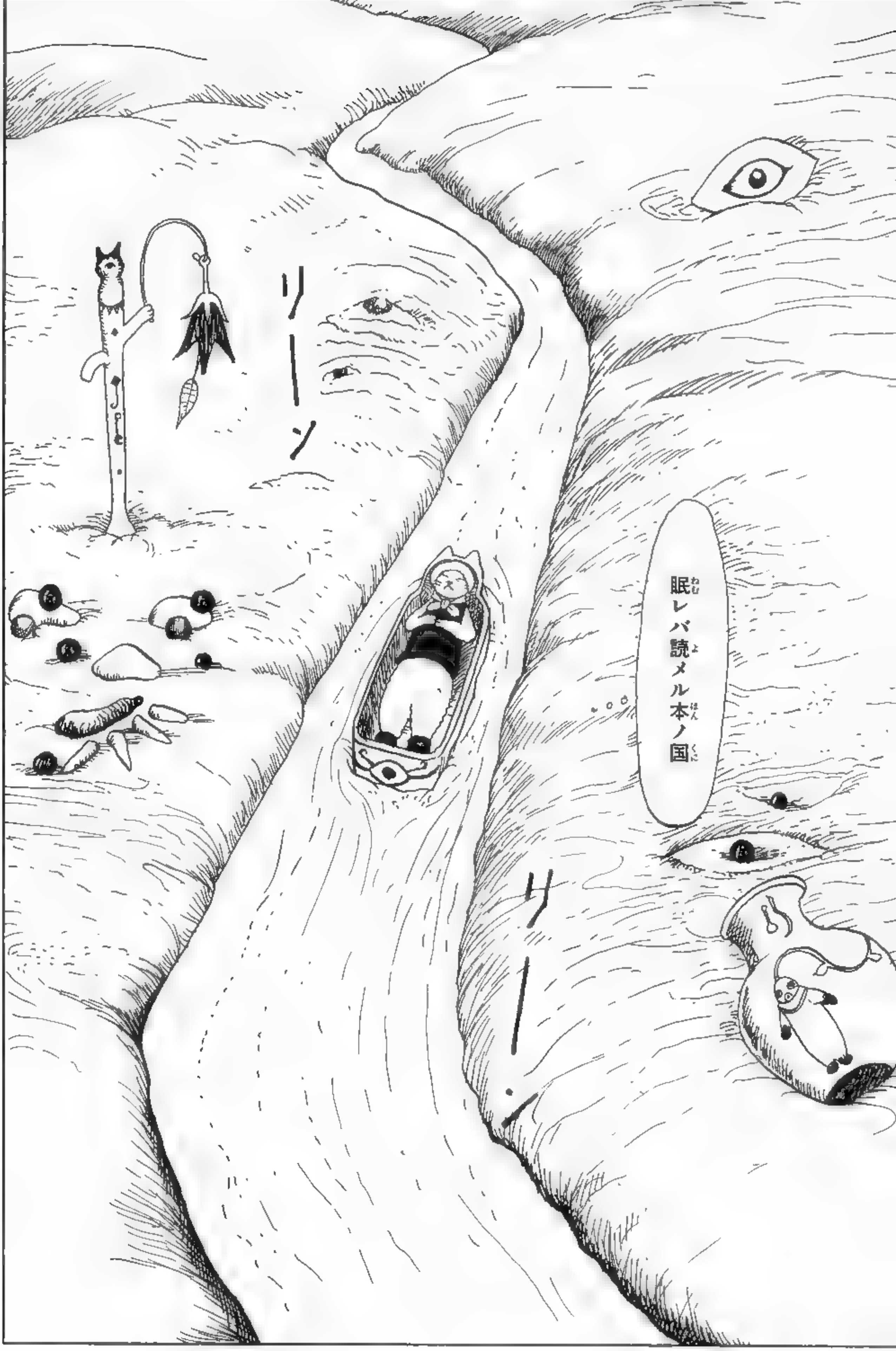

いくら降っても濡れない雨
雨音が読みを深める
おや
なんか光ってますね
陶芸屋が召集されたんだ
陶芸屋？
あらん
ついに


しかも
頂上で
読んでるぞ
片足上げてる
おめ
で
とう
痛読街道のテッペンに
到達したぞ
あっ
見えるのか?


見える……
カララ
陶芸屋が来たぞ
痛読街道は果てがない…
ここで降りればおまえの像が建つぞ
像などいらぬ
リーン
リーン
向コウニハ


リーーン
ドンナ本ガアルノダロウ


リーン


リーン
眠レバ読メル本ノ国
…
リ…ン

# 第五話　大流行（おおはやり）




おーい
テンプラー
あっ
今行くっ
お待たせ
どう?


それ ヒデヨシが忘れていったのか？
違うよ
オレがマント屋で買ったのさ
えっ!?
なんで？
かっこいいからだよ
かっこいい？
ああ
ヒデヨシの好みの良さが判ってきたんだ
なに言ってんだ…パンツ どうしたんだ？
どうもしないさ
あれっ


いそげーっ
なんだ あれは？


マント屋が


唐草模様のマントは もう売り切れです
他のじゃだめですか
唐草がいいんだ


も〜〜〜っ ありません
なんで ないいんだよ
そう!! 唐草のマントが かっこいいんだよ
なんとか してくれっ
大至急 取り寄せ ますから
大流行だな


そうっ
朝起きたら
どーしても着たくなったんです
イエーッ
オレは毎日
着たくなるのよーっ
やっと オレの好みの凄さがーっ 判りまくってきたのよっ
なっ パンツ
ああ 唐草マントはかっこいいよ
いよいよ ワシも
……
あまりに スルドク 時代を先走りすぎていた
ワシの文学が


モテまくる時が来た――っ
あ
り
え
な
い
大流行のドンブラコッコの波が
ドッパアンとおし寄せてくるのじゃ
聞こえるぞっ大傑作の足音がっ
3日後
……
……
……
……
………
いえらい いえらい
「いえらい…いえ…らい」…と


やったーっ 完成じゃーっ 脱稿じゃーっ
博士 推敲は？
スイコウ？
…ああ…… 二度読んでみて アチコチ手直しするってやつ？
そんな卑怯なマネはせんぞ
ワシの口から吹き出した宝石のような言葉ちゃん
しかし…たとえば これなんか意味判りませんよ
「ツメをふもんでめりまったのさ」
「ふもんでめりまった」いかにも味わい深い…
感じるのだっ!!
大切なのは意味ではない 感じることなのよっ
さー行くぞ カタツムリ社へ
え!?


博士 カタツムリ社は 潰れて もう ありませんよ
フフフ
ドブロク 作り…よっ
出版社の 本作りは ドブロク作りと いっしょ
味をしめたら やめられないのさ
ガサ ガサ
ドブロク 作り？
ホントだっ
波風 かわら版の ハナブンに 聞いたのよ
あっ


「スミレ博士立ち入り禁止」
それはねワシの来訪を待ってますってことなの
社長っ大傑作が出来たんじゃ
開けてくれっ開けるまで叩き続けますぞーっ
アンタねえ…どのツラ下げてやって来るのよ
アンタの本出版して2度も潰れたんだぜ
今度はだいじょうぶシビレる名作なんじゃ
お願いじゃ読んどくれーっ
こっちは締め切りでいそがしいんだ読んでるヒマはないよ



ヒマな時でけっこうじゃ
読めばシビレますっ
どーぞお頼み申す
読まないって言ってんだろ
社長
輪転ノ木の調子がっ
ビダン
判った
今行く
うっ
…あいつ
置き逃げかよ…
ドス ドス ドス
やったっ
手渡した
渡してしまえばコッチのもんだ
やりましたね
ドス ドス
でもー
話の後編の原稿は
まだここに…


ほほほ
前編読めば
必ず読みたく
なるのじゃ
シビレまくってな
「シビレ文学
『カブト節』
カタツムリ社
発行」…
なにが「カタツムリ社発行」
だよ！ 勝手にっ
「カブトムシが
唄ったぶし。
その目もが、
ろろそうに
すっぱげて
ああ、しびれ
しびれのこ」
…くぬぬっ
バサッ
読んだオレが
馬鹿だった
わははは
前祝いー
「カブト節」
出版記念のォ
…おっほっほ
ふええ
ヨタ
ヨタ
翌日

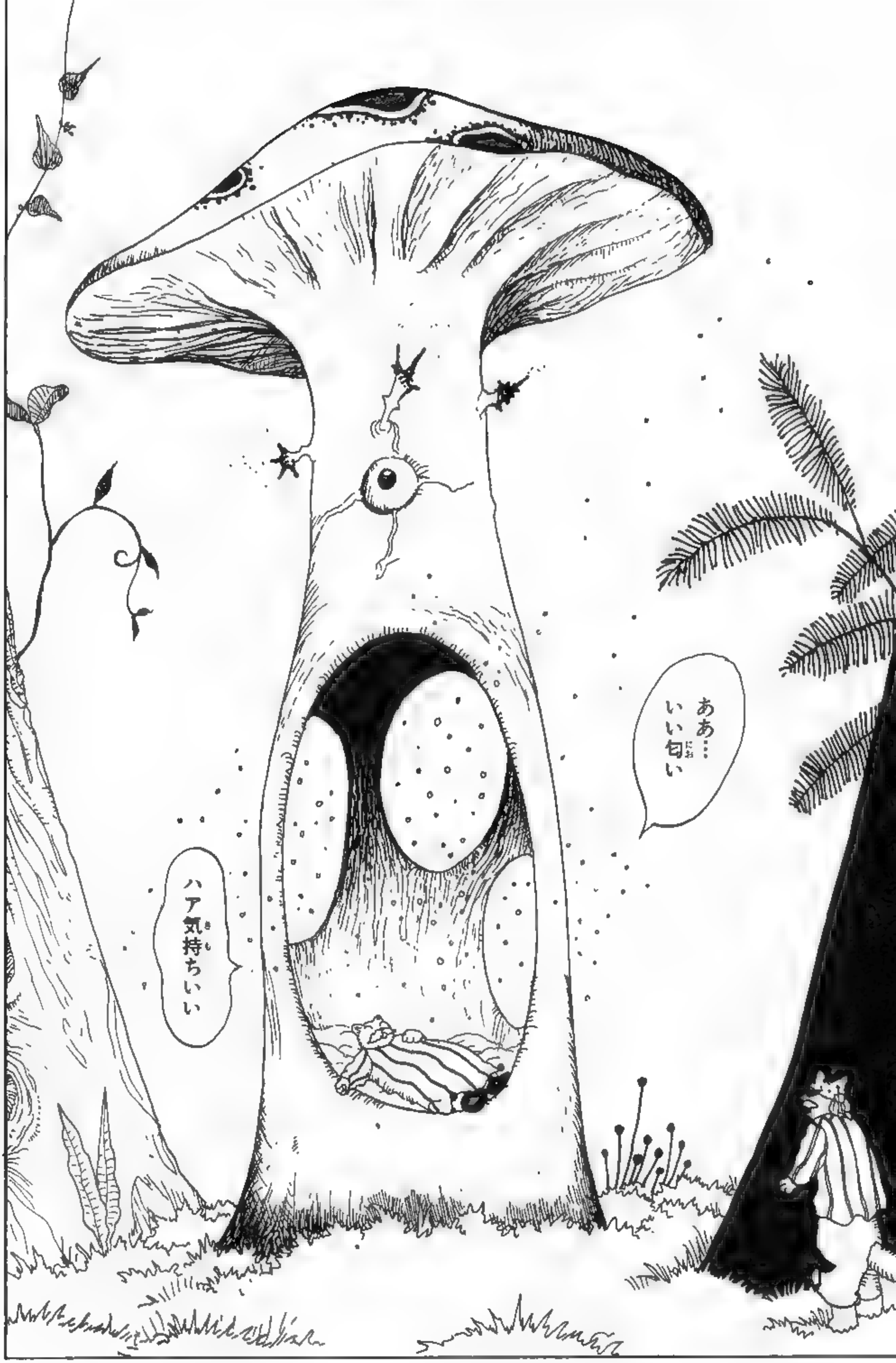

ヒデヨシの奴
帰ってないぞ
あっ
う――い
飲みすぎたい
なんだよ
テンプラ
そのかっこう
やっぱり唐草のマントだよ
そんなことより
ヒデヨシさ
スミレ博士ごっこして
小説書いてただろう
あの原稿
どうした?
あれは半分は
カタツムリ社に
置いてきて…
残りは
ホラ ここに
……らっ
ないっ
どこかに
落として
来たな


落として来た
アレがどうかしたのか
読みたいんだっ
読ませてくれっ
にゃ〜〜〜〜?
おーい
ヒデヨシーーッ
どうした
ハナブン
カタツムリ社が
スミレ博士の
本をくれーっ
頼む
欲しいんだっ
ありませんよ
そんな本
ないなら
刷ってくれっ
何冊でも
買うぞ
どうなってるんだ
もう!!
本当に買うん
ですね!?


なんだよコレ
おかしくねえか
おかしくなんか
ないですぞ
判った
刷ります
時代がワシに
すがりついたのです
3日後
ハイ
ありがとさん
カラン
カラン
カラン
スミレ博士の
新刊
発売だよーっ
「カブト節」
「かんくらいのクワ公め
すっぺらもんで、
さすがに、ハサミるよ」
そんなもん読んで
なにが面白いんだ
感じるんだよ
変なワクワク感が
オレにも
不思議なんだ
おほほほ


出版祝いじゃ メデタイぞーっ
わははは 黄金ウニんめえ
う〜〜〜い
書けば書くほど売れまくるう
どうみても アイツは怪しい
唐草模様のマントが流行るのも
あんなデタラメな本が売れるのも…


なんか急に気に入ってしまったんだよなあ
んっ
なんだこの酸っぱい匂いは!?
く～～くっ
えー匂いがするぞォ
しびしびっ
臭い
なにか腐っているのかな
くふふ…タマラン
シビレる匂いーっ
うっ
あっ


ああ…いい匂い
ハア気持ちいい



なんだ あのキノコ!?
あんな キノコ 見たこと ない
物知りパンツでも 知らないキノコが あるのか
ぐ〜〜っ ぐっ
あんな所で 眠り始めたぞ
うっ
ふげ…
フラ
寝ぼけて ヨタついてる
あれっ


あっ
ヒデヨシのマントと原稿だぜ
うっ
どういうことだ!?
あいつ…酔っぱらってフラフラここに来て
ああ たぶんマントや原稿を忘れていったんだ
ということは…
試しにマントと原稿をとって…



オレの帽子を置いてみよう
・・・
翌日
増刷だっ それ刷れ 売れまくりーっ
おんや そなたは いつもワシの 文学を せせら笑ってた
テマリ君では ないかっ 読みたいか？ ん——？
むしょうに 読みたいんです
なんの変化も ないなあ
うーむ
売れまくりー
うっ なんだ このマント
ああ 凄え みっともない
「げっぺも ぱっぴも もんめごい」
これ… ヒドイ本 だな


コラッ…なんだこのデタラメな文章はっ
ありゃなんですかその反抗的な態度は
こんなゴミみたいな本出して〜っ
バシッ
うっ…
オレも始まった
あ〜あ…変な格好
まるで波が引くように
スーッと我に返るな
おいパンツ見ろよっ
ああこの帽子は素晴らしいぃっ
いいねえこの帽子
あっ



パンツの帽子が流行り出した
どうなっとるのよコレ?
みんな臭いキノコの力なのさ
臭いキノコ!?
にゃあ?
ワシの文学が売れたのは
こつけなキノコのせいだっちゅーのかね失敬なっ
失敬もモッケーもねえんだよ なんべん説明したら判るんだ
ふう…
この世界のどこかに……透明で巨大なキノコが生えていて


流行(はや)りすたりが
できるのかもな

# 第六話　火山草（かざんそう）




お〜〜〜い
カツラ
なに作ってん
だあ
パン
猫だよ
猫？
雪をかためて
作るの
カツラうまいんだぜ


なにが猫だよ
甘いな
甘い？
いいかっ
猫っつーのはよっ
パ
パン


ど——だっ
これが猫だ
ひどい
どヘタッ
なんだとォ
ところで
おまえたち……
酒飲んでない？
あら 判る？
ら
猫正宗
ほほほ
野原に
落ちてたのさ
カツラと
大酒飲みくらべ
やるかい？



イエ〜〜〜ッ
オレの勝ちだぜーっ
オレが勝つ
翌日
それで
どっちが大酒飲んだんだい？
引き分けだよ
カツラの奴酔っぱらってどこかへ行っちまったのさ
ゴゴゴゴ
あれっ
変な音がするな


噴火するかな
まさか
でもどうしたんだろう
あーーっ腹へったぞ パンツ なにか食いものない？
ない
でも餅おごってやるよっ
餅
納豆餅食うぞーーっ
わ〜〜〜っ
んっ どうしたん？
助けてくれ


ありゃっ火事だっ
そーじゃねーんだっ中でっ
中？
らっ
火山草が噴火してるぞ
おかしいな噴火なんてしないはずだが？


よろしい オレが噴火を止めてやろう
このリンゴ笛の音でな
やめろ コラ その笛はっ
そーよ 効くのよ
心を込めれば込めるほど反応するのよ
ホレホレ
ボェッ
ボェ〜ッ
ボウ〜ッ
ああ 挑発してる
キャーーッ
あいつ火山草を鎮めるつもりなんかないな


あ〜〜〜っ
オレの家が
リンゴ笛で
大噴火かっ
ええっ
ひーっ
あらっ
こっちもだ
こりゃあ
いったい？
火山草屋に
行ってみよう



このやろっ
不良品だろ
火山草が
あばれてんだ
なんとかしろっ
スイマセン
原因が
判らんのです
「店主語る
原因不明」…と
よっ
ハナブン
はりきってる
ねーーっ
判らんじゃ
困るんだよ
ぐーーっ
ぐーーっ
おっ
ドラネコ団
おまえたちも
火山草か？
カツラが
酔っぱらって
出てって
まだ帰って
来ないんだよ
カツラが


カツラならだいじょうぶ雪の中で寝てたって死にゃしないぜ
そりゃあそうだ
おおっパンツさん
なんとか原因を調べてほしいんだ
いいですよ
「物知りパンツ原因調査受ける自信たっぷり…」
ねえハナブンさん
鳥霧山の火山活動と関係があるんじゃないでしょうか
えっヒデ丸もっと詳しく聞かせてくれ
火山草は生えている土地にある火山の活動に影響されるという説があります


ということは鳥霧山が活動を始めたのではないでしょうか
そーそー
そうなんじゃよ それがワシの説じゃハナブン君
ヒデ丸の説取るなよ
あ〜〜っ それは違うと思うぞ
違う？
さっき火山局に問い合わせてみたんだが
あの山の地中の変化はないそうだ
フーム…
ところで火山草はどこで栽培しているんですか
それは商売上の秘密でして…
秘密


ええ ヒデヨシとか来るとろくなことしないから
あらまっ
今はそんなこと言ってられません
一度見せて下さい
判りました 案内します
うーむ
こっち
凄い迷路だなあ
こりゃあ ヒデヨシだって判んないよな
いかにも すあーっぱり判らんぞ
おっ


ほう
ほほほっ ここが栽培所なのじゃな
イタズラするんじゃないよ
研究や調査は君のようなシロウトにはイタズラに見えるんじゃ
いーからなにもすんな


地熱で雪が消えてるな
どうしてこんなに熱が…!?
カポンコル様のせいですよ
カポンコル様?
あっ
火山草の様子が変だっ
ガサ
ガサ
でその偉い火山草はどこにいるのかな
ええ頭領根を持った火山草でとても偉いので
その周りにこうやって火山草が生まれるのです
こっちです
あっ


パタ
パタ
誰かが火口に落ちてる
あの服の模様!
カツラだ
助けなくっちゃ
ダメだ近づいちゃ


どうして!?
見たまえっ 体に火山草の神経ツルが巻きついてる
ムリヤリ引っぱったりするとツルが切れて大爆発するぞ
火山草はペンナムンペ草の系列だから……
美しい音色を聞かせるとおだやかになるはず
美音ですね
よーし このリンゴ笛の出番だな
そんな笛吹いたらカツラが吹き飛ばされるぞ
よしっ 名手を呼ぼう
お待たせしました


カツラ君救出のため弾きます
新曲「逆さ満月」
「逆さ満月」…不思議な旋律だねえ
地味だなあ〜っ
ここはやっぱりリンゴ笛だろう
あっ
おお神経ツルが旋律に合わせてゆれてるぞ
よし今だっヒデヨシッそーっとだぞ

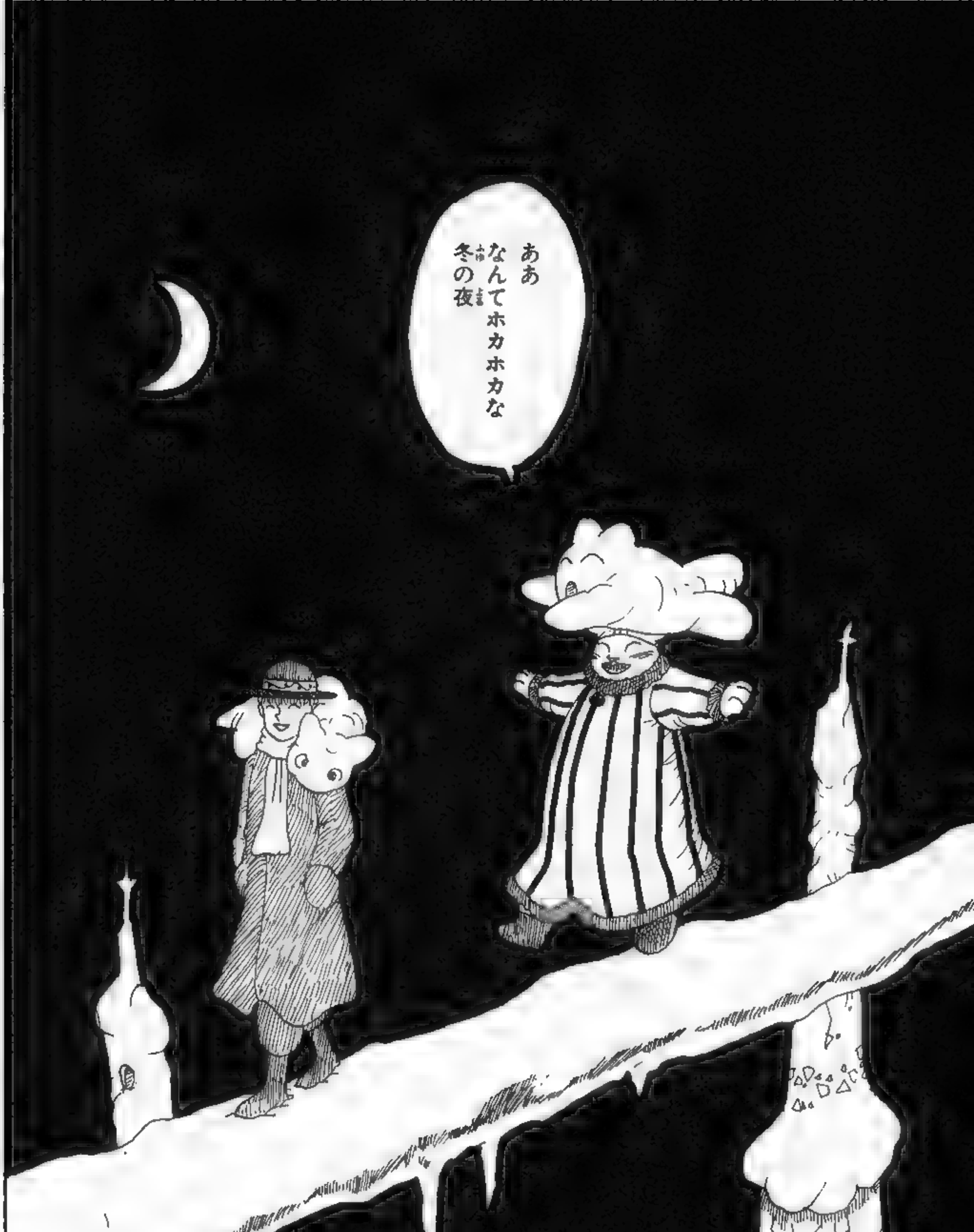

パンツ君 ワシは スミレじゃよ どこに 目 つけとるんじゃ
さっさとやらないと 餅食わせないぞ
おおっ そうだっ
納豆餅ーーっ
スポッ
ごっ
たす
かた
まったく カポンコル様に 頭からつっこむ なんてっ
ごめんね


ああ…腹いっぱい
餅もう食えねえ
おおっ
うちの火山草もおとなしくなったな
フーム…
どうしたパンツ
ヒデヨシに餅食われすぎてがっくりしてんのか
ら
あっ
そんなんじゃないよ
カツラがさ火山草から体を抜いた時
あいつの頭に火口の中からツルのようなものがついてたんだ
頭に⁉


なんだ これ？
にゃっ
これは…カツラが雪で作った猫だぞ
不思議な煙ですね
消えませんよ
なんともあどけない…
カツラが
見てるとホンワカするなあ


胸の中が温まってくる




ああ
なんてホカホカな
冬の夜

# 第七話　元気ノ素（前編）





うまままっ
ヨタ ヨタ
ノロ ノロ
ちょっと爺さんたちよォ
もーちょっとサコサコ歩けないのォ
クッソーッ 年は取りたねーもんだっ
これでもめいっぱい歩いてんだよ
そーだぞ おまえも いずれ年取ってくるのじゃぞ
ウプププ



オレは永遠においぼれ爺になんかならないわよーっ
コラッ ヒデヨシッ
おまえは老猫をいたわるという気持ちはないのかっ
あら おこりんぼ女
いたわるってなんだ?
…そっか
いたわってるわよっ
板なんていつも割ってるぜいっ
こいつアホウだな
ザー!!
ふ〜む ちかごろ


この森って年寄りが多くないかい
温泉目当てだろ
温泉？
ああ…年を取ると足や腰が痛くなって温泉治療するのさ
でもよォ年寄りってモタモタ歩いてて迷惑なのよねっ
迷惑って
森一番の迷惑猫はおまえなんだよっ
3日後
ヨタ
ヨタ
んっ

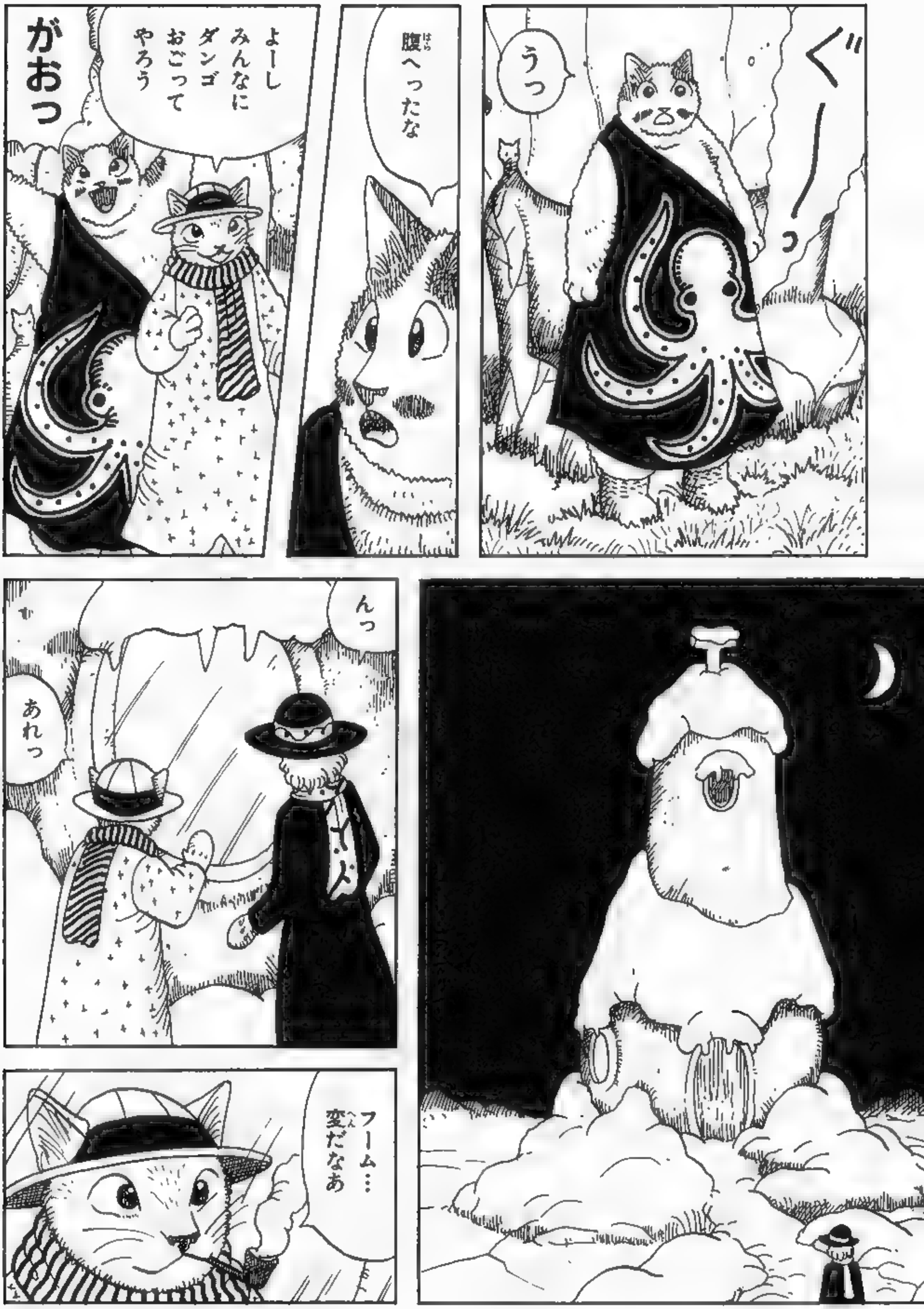

ノロ ノロ
はあ…
ちょっとアナタ もう少し サッサと 歩けないのかいっ
ペシッ
うっ
ありゃ
この間の爺さんっ
貴様 嫌がらせのように ノロノロ歩いてるのか
違うのよ
なんだか急に 調子が悪いのよ
へっへっへっ
年寄りを 大切にせんから 罰が当たったのさ
罰よ


老猫をいたわらないから罰当たり猫になったのよ
くっそーっパチパチ聞きあきたぜ
ぜんぜん気合が入らないのよォ
気合なんか入らなくていいよ
どうせろくなことしないんだから
酒飲む気もないのよォ
なんか変なものでも食ったんじゃないのか？
ぐーっぐーっ
オレたち欠食ドラネコ団
おっ


トボ
トボ
パコッ
うっ
トボ
トボ
ありゃ
なんだ アイツ？
よーし
パン
変だな
オリャヤッ
ボワ
げっ


あれーっ
おいヒデヨシ…どうしたんだあ
フーム こりゃあ確かに変だな
あっテンプラ
(トントコ医院)
フーム…
3＋2は
えーっ


3よりは多い…
頭は悪いが
体はどこも悪くない
そうですか
どうもやけに無気力すぎるんで変だなあと…
こいつ臭い芝居してんじゃねえか
芝居?
その線も捨てきれませんが…
芝居なんかしてないよォ

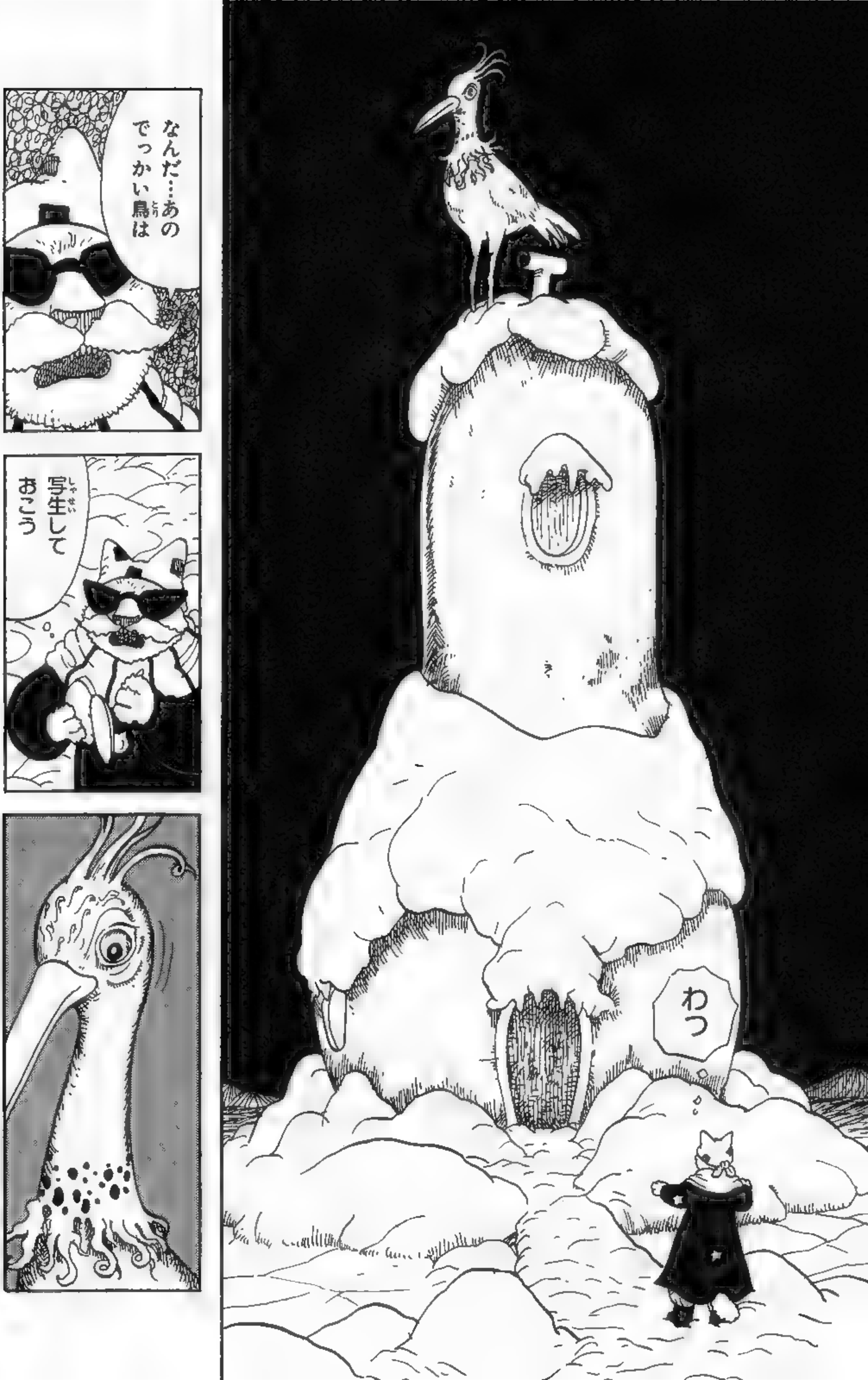

ぐーっ
うっ
腹へったな
よーし
みんなに
ダンゴ
おごって
やろう
がおっ
んっ
あれっ
フーム…
変だなあ


ぐ〜っ
ぐ〜ご
あいつ ダンゴ食ってないぞ
さっきもダンゴ屋で1本も食わなかったが……
確かに妙だ
どうやら臭い芝居じゃないな…
オクワ酒屋
お晩ですぅ



おっハナブン
らっしゃい
髭ピン住吉の熱燗
ふー
最近
かわら版出ないね
こう平穏だと
記事にならないよ
ヒデヨシでも
ひと騒ぎすれば
別だが
あいつ
調子悪い
みたいだぞ
えっ…
調子悪い？
そうなんだ


数日前
年寄り猫たちが
ノロノロ歩いてたら
ヒデヨシが
「もっとサッサと
歩け」とか
言ってね
それから
3日ほどしたら
アイツがトボトボ
歩き出し
すっかり元気が
なくなったんだよ
罰が
当たったんだな
えーーっ
アイツにバチなんて
効かないぜ
長年 滝のように
罰を浴びている
全身罰当たり
猫なんだから
ふーっ
ヒデヨシが
元気ないだと…
どうも
信用できねえ…
様子を見に行くか
うっ


わっ
なんだ…あの でっかい鳥は
写生しておこう



ヒデヨシが調子悪いのはこの鳥のせいなのだろうか？
あれ
クーーッ
ひっ
いない
ぐわっ



んっ
なにやってんのハナブン
…うっ
鳥にやられた
鳥!?
ああオレの体の倍もある大きさで
それがヒデヨシの家に
!?


そうさ そいつを写生していたら急に後ろに現れて
目がギランと輝いたと思ったらオレは気絶したんだ
夢なんかじゃないぜっ
ホラ これが写生した奴さ
[redacted]でも見たんじゃないのかい？
フーム… 頭のとこと… 首のあたりに特徴があるな
でも こんな鳥知らないぞ
パンツでも知らないのかっ
鳥類図鑑は色々読んだが……
まあ とにかく


その巨大な鳥にお目にかかろう
わははは
さあさあヒデヨシ君
おいしいお酒飲んで元気出しなさーーい
酢ダコもかじり放題よっ
酒もいらない……酢ダコも食いたくねぇ
なんにもしたくねえ
さすがのヒデヨシも重症だなあ
その巨大な鳥が原因なのでしょうか


そうだっ
鳥っ
鳥はまだかっ
鳥——っ
出て来いっ
せっかく静かにして待ってるのに…
うう
バン
酢ダコ食わせっから出て来なさーい
だめだな今夜は…
うむむ……
こりゃあ飲むしかねえな
きっ



昨日はどうもすいませんでしたっ
なんの なんのこちらも酒やタコをごちそうになったからさ
今夜はここで おとなしくしてますからっ
ねえハナブン私 見に行ってもいいかな
ツキミ姫なら酔っぱらったりしないからいいですぜ
ヒデヨシは?
もう寝てるよ



んごーっ
いびきかいてる
さっきまで寝てたのにまた寝るのかよ
どんなに無気力になっても不眠症にはならないな
し〜ん
しかし…ホントにおまえの体の倍も大きい鳥なんていたのか？
オレを信じろよ
波風かわら版は妄想記事が多いからなあ
！
どうしたツキミ姫



あっ
ホントだ でかいっ
ククッ
どうだパンツ 来ただろう
これでも 妄想か
こいつは 凄いや
確かに 凄いね


アイツ
なにやってんだ？
口ばし
動かしてるぞ
テンプラ
近づくなよ
見つかると
目玉光って
気失うぞ
あっ
んっ…
どうかした
のかい？
ホラ
！
うっ
アイツ


なに食ってんだ?

# 第八話　元気ノ素(後編)




ハナブン
どうかしたのか？
ツキミ姫と
手つないで
みなよ
え？
あつ


なんだ? あの鳥
なにか食ってる
なあ
ツキミ姫を通して
なにか見えてるのか?
ああ
変なもの
鳥がヒデヨシの家から
なにか引っぱり上げて
食ってるんだ
えっ なにか
食ってる!?
あっ
飛んでいった…



ツキミ姫 あの鳥 なにを食ってたんだい？
わからないな
んがーっ
ヒデヨシはどうしてるんだろ？
大いびきかい
それにしても… コイツの部屋から
どんな食い物 吸い上げたんだ？
食い物なんて なにもないぞ
ヒデヨシが 食い散らかした カケラくらいしか
フーム… ナゾですなあ
翌日



波風かわら版だよ〜っ
ナゾの大鳥が来たぞう
カン
カン
透明なものを食う
ヒデヨシの家が襲われたーっ
なんて書いてあんの
「巨大な鳥がヒデヨシの家から……」
丸くて綿菓子のようなものをパクパクと
綿菓子んまそー
変だなあアイツんち
アイツがいない時に時々入ってるけど
綿菓子みたいな甘い食い物なんてないぞ


そーそー
そーなのよー
あら ヒデヨシ
綿菓子なんてないのによォ
いったいなにを食ったんだあっ
それにしても
物知りパンツも知らない鳥って
どういうことだ
4日後
ヨネザアド鳥類研究所のバガンモです



これが かわら版屋の ハナブンが描いた ものですが
透明なものを 食う!?
…目が光って 気を失う… 首のあたりの 特徴…
こんな鳥 見たこと ありませんな
パガンモ博士でも 御存知ない
ああっ 考えただけで ふるえが来るよ
こんな鳥が 本当にいるのか
いるのじゃよ パガンモ君
やーっ ワシはスミレ博士 ですーっ
スミレ!!
おまえか 絶滅種になりかけた ママドリの卵を 食った男は


おほほ アレは んまかった ですわ
フサケたことを 言うなっ 貴重な卵を
ワシは胃袋で 鳥の卵を研究 する学派なのじゃ
すると博士は 今回の鳥の卵も？
もちろん 胃袋調査じゃ
なにが調査だっ ヨダレなんか 垂らしてっ
変ですねえ ヨダレが 少ない
そう いえば!!
そーなんじゃ ここんとこ どうも調子が 悪くてのう
でも あいつの卵を 食えば治るわよ


冗談じゃない 絶対に卵は守るぞ
号外だよ 号外
んっ
「ナゾの鳥の巣 発見者には 御褒美」
「ヨネザアド鳥類研究所 パガンモ博士語る」
凄いっ 発見したら 紅マグロ3匹 だぞっ
わおっ
しかし こんな鳥 見たこと ないぞ
う〜〜〜っ どうやって 探せば いいのか…
ほほっ
オレは 探すぞっ



モフ
うんせ
モフ
うんせ
カツラ どこまで行くんだよォ
もーっ
なんか こっちで聞こえるよ
んっ
ココココ
あ
ねっ
凄え いたぞっ
やった 紅マグロ3匹だっ
ごっ


パンツ
カツラ
ドラネコ団か
あれーっ もう来てたのか
これじゃ ヒデヨシに 見つかるのも 時間の問題だな
そーです
お待ちかねーーっ
うわっ 来やがった
コラッ 鳥っ
よくも ヒデヨシ君の家から なにか食ったなーっ
なに食ったか 知らねーか お主の 卵で返して もらおうぞっ


ぜんぜん逃げようとしないな
普通の鳥ならヒデヨシの声に寒気がして逃るのに…
これは ひょっとしてジラジラ鳥…
ジラジラ鳥?
伝説の中の鳥だよ
北極の水の中で生まれ見たものを気絶させる
その卵を食べた者はひどく苦しんで死ぬという
ジラジラ鳥…
名前なんかどーでもイイのじゃ
卵食わせろ
あっコラッ
貴様本気で食う気かっ


鳥さーん
卵くれ〜っ
クワッ
ギッ
ボフッ
ぐわっ
卵食わせろっ
ケッ
くっそォ
負けない
わよーっ
やめろっ
負けて
くれーっ


ああ良かった
助かったあ
おほほほ
1個見っけっ
うわっコラッ
ヒデヨシ食うなっ
やめろっ
紅マグロ
3匹やるから
食わないでくれっ
3匹かい
もっとくれる？
判ったっ
10匹やるっ
イエーッ
10匹なら
いいわよっ
らっ


ガ
割ったっ
なんてことを
わーーん
もったいないっ
じゅる
んめえぇ
しびれる味じゃぁ
くそーっ
なんて奴だっ


ハ〜〜ッ
んまかった
ずーーっ
なにが
「んまかった」だ
貴重な卵を
まったくーっ
う…
腹痛え
え!
なに
変な鳥の
卵を食べた?
痛いの
よーーっ
おまえが腹痛
起こすとは
凄い卵だな
苦しいのよォ
助けて
くれえ
んっ


ぐわっ
なんだ これはっ
ブルルル
先生 磁石計の針がグルグル回ってますっ
病室が壊れるっ
ヒデヨシを外へ出せっ
痛でーっ
どうなってんだっ
うっ
凄ぇ


極光だ


ああ…
でもなんで極光が出現したんだ!?
磁石計の針が回転してるって言ってたな…
磁場が狂ったのかもしれないぞ
ええっ
オホッ
痛みが消えたわよっ
なんだいこの光?
その光が磁場を狂わせたのかもな
あれ…あの極光…
ん?
これは!!
ああ…ヒデヨシの


夢が極光に




このタコ
オレの夢に
出てくる
三角ダコだわ
ジラジラ鳥の
卵…
ヒデヨシの夢…
あの鳥が
ヒデヨシの家から
吸い上げて食って
いたのは！
夢だ
ヒデヨシが見て
いた夢なんだ
オレの夢が
ドロボウ
されたのくあっ
おまえが元気
なくなっていたのは
夢を吸われた
せいなんだ
おのれっ
ドロボウ鳥めっ
残りの卵も
オレのものだあ
ああっ
なんと
素晴らしい
鳥なんだ
うう
この極光
おまえが見た
夢なのか
ヨタ
ヨタ


ありゃ ヨボヨボ爺
そーなのよォ オレの見た夢よ
なんとも デタラメな もんだが
おかしいのう… 胸の中がズンズン 熱くなってくる
ああ 得体の知れない 元気が湧いてくる
胸の中で 反応してるんだ
生きていくには
夢が必要なんだ
イエッ
元気よ 元気
たっぷり眠って



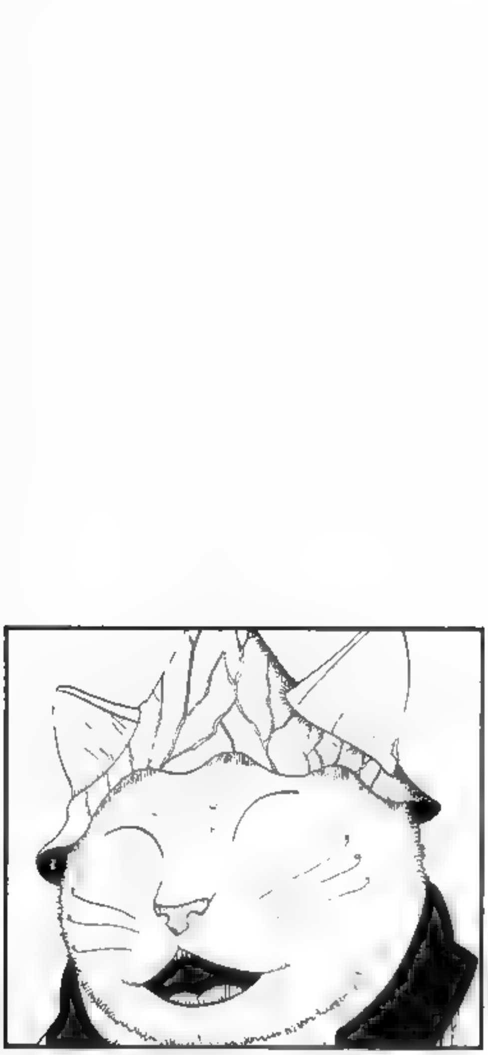

アタゴオルは猫の森⑭　おわり

ますむら・ひろし先生の最新情報は公式サイト

「ごろなお通信」

をご覧ください。
イベントや新刊の情報、日頃の創作活動など
楽しみがいっぱいです。

http://www.tiara.cc/~goronao/



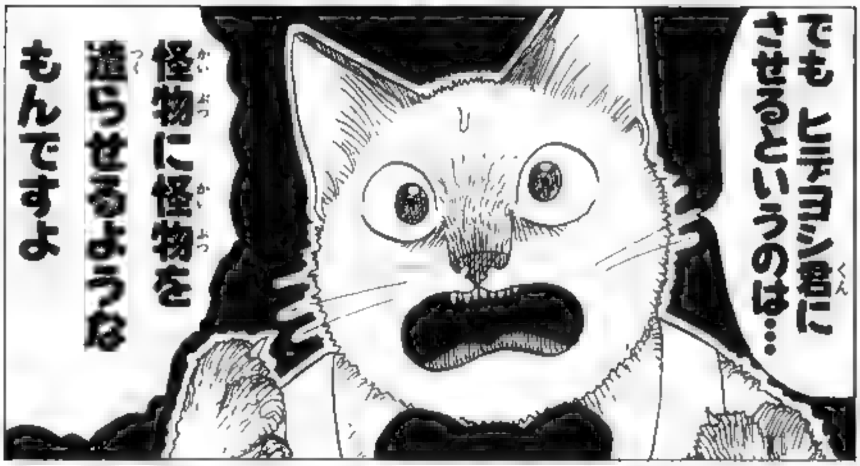
# アタゴオル余波14

ますむら・ひろし

　パチンコ業界誌『王様手帳』の表紙を描き始めてから、二十年近くなる。アタゴオルのカラー・イラストが年に十二枚ずつ増えるのは、そのお陰で、たっぷりと溜まった作品の中から、カレンダーも出せるようになった。かつてビンセント・ゴッホの絵画をアタゴオル風に描くというのをやったが、最近は葛飾北斎の浮世絵をアタゴオル風に描くというのに凝りだし、現在七点になりこれからも増えていく。北斎の絵をアタゴオル風にするからといって、ただ人間をヒデヨシや唐あげ丸に置き換えて、それでヨシとは、もちろんいかない。なんとか絵の雰囲気を壊すことなく、そこにアタゴオルの気配を漂わせようとするのだが、それはなかなか難しい。どの辺までアタゴオル化させるのか、たとえば植物などの場合、松の林を南国風の木に置き換えてしまうと、あまりにぶっ飛びすぎて、アタゴオルに近づきすぎ、雰囲気が別なものになる。最初はそれでもいいと思ったが、やはり僕の気持ちは、北斎画塾に入れてもらい絵の神の感覚を学ばせていただいている、という実に謙虚な気持ちで、巨匠の凄みを体験したいのだ。

　というわけで、だんだん原画の雰囲気に近づいていき、なにやらアタゴオルの面々が東海道を歩いているような絵も描いてみた。そこでつくづく日本的の極みと思うのが、あの富士山だ。これを描くと、テンプラやヒデヨシは、江戸時代の静岡あたりをうろついてるみたいで、タイムトンネルに入ったような、なかなか不思議な感じがしてしまう。だがあんまり日本的なので、最初の頃は、富士山を噴火させて、磐梯山みたいに形を変えて描いたりした。まあ富士山が遠景にある作品では、それもいいのだが、ドーンとでかく存在している絵の場合、成層火山の綺麗な左右の稜線が作る美しさ、北斎はこの線の美しさをバランスの中に入れていることに気づくと、もう火山好きだからといって、簡単に噴火させられなくなってしまう。こうしていろんなことに気づくと、描き始めた頃の気楽な気持ちは失せて、北斎の真髄に少しでも迫りたいと思うようになった。あれれ…これは、何かに似ている…。そうだ、宮沢賢治を漫画

化したときに似ているんだ。
あのときも最初はアタゴオル風にでも行くか、という気さえあったのに、描いているうちに賢治の凄さというか、底無しの魅力の深さに、とことん潜ってみようとなったの




だった。今回もだんだん北斎の描いた線のバランスの凄み、その難解さに、うむむ深い…となってきた。何が難解か、例えばそれは、普通はジャマで描かないものを、あの方は平気で描き込んでしまう。ここに無いほうがいいなというものを、北斎は何故か描いてバランスを壊しているのだ。美術的なテストでは、明らかに「置かないほうがいい」位置に、平気で置いている作品が多々あるのだ。彼はそんなことは重々判っていて、それでもやるという点、このあたりの凄さは、もっと模写的な体験をしていかないとわからない。ということで北斎様堪能をする近頃なのであります。それでは、作品について少々。



「木意慕」。
表紙のヒデヨシのポーズは、前編が南方熊楠さまの図、後編は言わずと知れた〝鉄人二十八号〟をあやつった金田正太郎少年のポーズです。木がロボットのように動き出したりすると、普通は巨大な敵が現れたりするはずなのに、魚屋の魚を盗むとは情けない。植物の視線を持って世界を見るという感覚は、まだまだ未知なものがあるはずで、キッキはたぶん、まだアタゴオル




の森のどこかに居て、ノッソリ登場するはずだ。

『絵の具を買いに』。夢の日記をつけている。といっても毎日つけられるわけではないのだが、目覚めたときに夢を覚えていると　すぐにノートに描く。だが夢の記録というものは、目覚めていくとスッと消える。それを捕らえようと字を書くうちにも忘れていくので、字を書くことすら、まどろっこしいのだが、僕の場合どうしても映像が浮かぶので、印象強いシーンを絵に描くのだ。こうして何冊もノートがたまってきたが、夢をそのまま描いても作品にはならないし、なにより、夢の独特の感覚を漫画にするのは、これが実に難しい。何しろ、意識はシッカリしていて、思考するから、夢独特の文脈にならないのだ。かつて描いた『水晶散歩』以来という感じで、今回描いてみたのだが、呪文のシーン…「描ク・描ク、詩カ字カ」と書いたものが、雑誌に掲載されたら「かくかく・しりょくじりょく」とルビを振られたのには、参った。決めゼリフだったのにいと唸ったが、単行本では直ってますべな。今回読み返してみると、夢の持つ不思議な感覚、何箇所かはデキタ感じはするが、夢をモチーフにした漫画というものは、まだまだ奥が深



い。

「痛読街道」。テンプラくんの夢があるとすれば、ヤニ・パンツ氏はどんな夢を見るのだろう。本でいっぱいの山。難解で読めない文字の本。この作品のなかで何箇所かは、僕が実際見た夢が入っている。ひとつは、道路にたくさんのモノが置いてあり、歩くのが不便というもの。本でできた山というもののモデルは、本でいっぱいの通りという夢。そして最後の棺おけのような陶芸。これは友だちの奥さんが大きな陶芸を焼くが、それを見て棺おけのようだと思ったという夢。それにしても異空に行っても、本好きの人には本が待っているのだろうか。「黄泉の国」は、音だけ聞くと「読みの国」とも聞こえる。テンプラに続いてパンツが見た夢ということで、そうなるとヒデヨシならどんな夢を見るのだろうかと考えて、ラフを描いたりしたが、なかなか難しくて、まだ出来ない。現実でヤリタイ放題の男は、どんな夢を必要としているのだろうか。




「大流行」。ひさしぶりのスミレ博士対カタツムリ社の戦い。「出版社の本作りは、ドブロク作りといっしょ、味をしめたらやめられないのさ」と言う言葉は、スミレ名言集に収めたい。流行ものには、時間がたってから見てみると、ナンデ・アンナモノガと思うものがあるが、それはまるで、自分の昔の写真を見て、アフロ頭の自分にギョッとするときの、寒さに似ている。




流行は、時間が過ぎてしまうと、恥ずかしいものがほとんどだが、やはり永遠に凄いものも混じっている。

「火山草」。火山草のような暖房植物があったらいいなあ




と思う。でも遠い未来には、そんな植物が出来るかもしれない。ドラ猫団のカツラくんは、あどけない。カツラが描く絵は、やはりあどけない。幼稚園の子ども達や小学校の低学年生が描く絵のなかにある、なんともいえない素晴らしい気持ち。我が家には、娘と息子がそんな時期に描いた絵が、僕の原稿入れのロッカーのなかに一緒に入っている。そして今回のカツラくんの想い描いた猫の絵は、娘が小さいときに描いた猫の絵をモデルにした。この笑顔は子どもにしか描けない。そんな形がくれる温かさは、幼児を持った家庭に、漂う温かな時間なのだ。

『元気ノ素』。作品を書こうとしているとき、悲しいことがあると、それが釘のようになって、胸の奥を刺してくる。どうしてこんなことになったのだろうと、友達の突然の死を前にして思っているうちに、新しい締め切りが来る。悲しい衝撃のなかで、何かを思考していると回りのいろんなものが、刺激となってくる。そんなとき、オーロラの画像を見た。それは啓示のようになって僕のなかに入ってきた。オーロラの画像をノートにスケッチしながら、何枚か写していくなかで、悲しいことからの脱出としての、オーロラ



の物語が浮かんだ。

人は、何かに出会うために、人と会う。その人は必ず何かを残して去っていく。オーロラとは、その移ろいの軌跡に似ている。その人を想うとき、胸の中でいつまでもオーロラは湧き、楽しかった時刻や苦い夜やいくつかの笑顔たちが真っ赤に燃えた輝きとなって、現実の寒さを忘れさせ、胸の夜空にぶら下がって見せるのだ。死ぬことがサヨナラだとしても、生きる中で会うサヨナラでも、心の中で、さまざまな記憶としての輝きが、これからも何度でも浮かんでくる。

まだ手を開けば、今もオーロラは見える。僕は赤から青に変わるオーロラを、ずっと握り締めているのだから。



(初出) コミックフラッパー 2008年9月号～2009年4月号

MFコミックス
フラッパーシリーズ

MFコミックス
# アタゴオルは猫の森……………14

2009年 6 月30日 初版第1刷発行

著者……………ますむら・ひろし

発行人……………伊藤 誠

発行所……………株式会社メディアファクトリー
〒104-0061 東京都中央区銀座 8-4-17
TEL 0570-002-001　03-5469-4760(編集)

印刷・製本…………大日本印刷株式会社


ISBN978-4-8401-2578-9 C9979


宮沢賢治学会・イーハトーブ賞に輝く
ますむら・ひろしの集大成 全作品収録！
賢治の
足音が、
息吹が聞こえる……
メディアファクトリー刊
MFコミックス
絶賛
発売中
定価各750円（税込）